

税

税													湯 屋 計	
理											第	等		
四月	日割徴収	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月				六月

縣入財務

三九二

種

雑

種														雑			
屋											湯			何 々 計	々		
第						何					第		一 ヶ 月		二 ヶ 月		
一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月		二ヶ月			

三九〇

税

第				遊藝師匠計	匠 師 藝																		
					日割徴收																		
六月	七月	八月	九月		十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	三月	三月											

縣ノ財務

種 雜

種		遊	理髮人計	人																			
				等 何 第																			
五月	四月			日割徴收	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月								

税															
何						何々計	々								
何							等			何					
九月	八月	七月	六月	五月	四月		日割徴收	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	

種														雜							
第								等						何							
八月	七月	六月	五月	四月	日割徴收	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月							

税													
馬 上 以 立 正 二					船 計	船							
						間 何						間	
						船	農	間	何	半	年	一	二
二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月

縣ノ財務

種															
何			遊 覽 所	興 行	演 劇	市 場	何 々 計	々							
								日 期 徵 收	三 月	二 月	一 月	十 二 月	十 一 月	十 月	
四ヶ月	五ヶ月	半年													

税														
水				車	積大車									
挽					計	何					々			
三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年			一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月

縣ノ財務

種 雜														
車														
荷	車	馬	牛	積	輪	二	乗人					一	車	
							一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月			半年
五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月

税

屠	馬	乘	水						車						
			乘 馬 計	々					何	何	何	何	何		
				一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月						半年	一ヶ月
羊															
馬															
豚															

縣ノ財務

種

雜

種	何						鍾紡械器績紡					日		
	々	々	々	々	何	何	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月
半年														

税														
日 本 形									西洋 (風帆) 船形 計	船(帆風) 漚 燕				
何 百			石 積							噸 何				
四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年		一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月

縣ノ財務

四〇四

種 雜																		
西 洋 形									馬 計	馬								
何 積			噸 何							日割徴收								
半年	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月		三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	半年	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月

四〇四

計	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	徴收區分	前半年度間		后半年度間		合計
							員數	徴税額	員數	徴税額	

内金何程 算出 過算
外金何程 算出 不足
但明治何年何月何日現在戸數何程何々ニテ課税外ニ属スル分何程扣除縣税ノ賦課ヲ受ヘキ戸數何
程一戸ニ付金何程ノ半額

金何程 縣令第何號追加分
但、
、
、
、
、
、
、
、
、
、

内 隨時徴收分
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、

雜種稅合計	種					日本形船計	雜			
	何々計	々々		何何			船石			
		、	、	、	、		、	積	一ヶ月	二ヶ月

一金何程 戶數割
内金何程 徴稅未濟額
内 金何程 不納欠損額
金何程 前(後)半期分

一金何程

金何程

内金何程

金何程

内 譯

金何程

内金何程

外金何程

營業稅附加稅

徵稅 濟額

徵稅未濟額

不納欠損額

前(後)半期分

算 出 過

算 出 不足

但明治何年何月何日現在營業稅法ニ依リ營業稅ヲ納ムル者何人此稅額何程内營業稅法第三十條該當ノモノ何人此稅額何程ヲ扣除縣稅ノ賦課ヲ受クヘキモノ何人此稅額何程本稅一圓ニ付金何程ノ半額(何程)

金何程

内金何程

外金何程

但人員何人此稅額何程本稅一圓ニ付金何程

明治何年度縣稅徵稅額書面之通ニ有之候也

年 月 日

知 事 宛

郡 長 氏 名

備 考

一 用紙ハ美濃紙トス

營業稅法第三十條該當者ヨリ徵稅分

算 出 過

算 出 不足

- 二 營業稅雜種稅徵稅額内譯賦課ノ科目ハ縣稅賦課規則ニ掲クル科目ノ順次ニ其科目ノ異ル毎ニ式ノ如ク一區劃ヲ設ケ記載スルモノトス
- 三 同上課稅標準ハ一賦課科目中稅率等級等算出ノ基ク所ノ異ル毎ニ式ノ如ク一區劃ヲ設クルモノトス
- 四 同上徵收區分年稅ニ係ルモノハ半年(六ヶ月分)分以下一ヶ月分迄ニ又月稅ニ係ルモノハ各月毎ト日割徵收トニ區分スルモノトス
- 五 同上員數及徵稅額四月乃至九月ノ六ヶ月間ニ於ケル分ハ前半年度間十月乃至三月ノ六ヶ月間ニ於ケル分ハ后半年度間ノ欄ニ記載スルモノトス
- 六 營業稅商業稅中藝妓屋ノ員數欄内ニハ寄宿藝妓ノ員數ト藝妓屋營業者ノ員數トヲ割書スヘシ若シ一ノ藝妓屋營業者ニシテ等級ヲ異ニスル藝妓ヲ寄宿セシムルモノアルトキハ該營業者員數ノ記載方ハ何レカ一方ニ墨書シ他方ニ朱書スルモノトス
- 七 日稅中市場稅遊覽所稅ノ員數及徵稅額欄内ニハ半年度間ノ開場延日數及總徵稅額ヲ記載シ演劇稅興業稅ハ員數欄記載ヲ要セス
- 八 俳優ノ常時專業ニアラサルモノニ賦課シタル日稅ハ俳優稅末等ノ次ニ日稅ノ一區劃ヲ設ケ員數欄内ニ半年度間ノ延日數ト人員トヲ割書シ徵稅額欄内ニハ半年度ノ總徵稅額ヲ記載スルモノトス
- 九 月稅ノ日割徵收ニ係ル員數及徵稅額ハ半年度間ノ總員數及徵稅額ヲ記載スルモノトス
- 十 雜種稅漁業稅中漁業場ノ員數欄内ニハ個所ノ數ト其個所數ニ對スル收稔金ノ合計ヲ割書スルモノトス
- 十一 隨時徵收ニ係ル戸數割徵稅額内譯記載方ハ前各項ニ準スルモノトス

十二 家屋稅徵稅額ハ戶數割ノ例ニ依ルモノトス
十三 日稅ニ係ルモノ及築漁業場稅ノ類ハ年度末日現在員數揭記ヲ要セス

第九十九號 (訓令) 明治三十年三月二十九日

內務部
縣金庫出納取扱人

縣金庫取扱銀行交替ノトキ現金及事務引繼手續左ノ通相定ム

縣金庫現金及事務引繼手續

第一條 現金及事務ノ引繼ハ交替ノ日検査員ノ立會ヲ以テ其受授ヲ爲スヘシ第二條前取扱銀行ニ於テ
ハ后取扱銀行ヘ引繼シヘキ現金殘高ノ仕譯書及帳簿並ニ證憑書其他書類ノ目錄別紙書式ニ據リ二通
ヲ作り検査員立會現物ニ照シ受授ヲ爲シ仕譯書及目錄ニ式ノ如ク記入捺印ノ上各一通ヲ所持スヘシ
前項引繼了了シタルトキハ仕譯書及目錄ノ謄本ヲ添ヘ引繼完了ノ旨ヲ前後取扱銀行連署知事ニ届出
ヘシ

第三條 左記ノ帳簿ハ引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ下ニ單線ヲ畫シ會計高ヲ記載シ其下ニ二線ヲ畫シ其
次ニ年月日ヲ記入前後取扱員各署名捺印スヘシ

一 現金出納簿

一 回送金整理簿

第四條 検査員ハ各廳出納吏ヨリ保管金ノ仕譯書ヲ徵シ金庫現金殘高ト照合スヘシ

明治何年何月何日 現金殘高仕譯書

愛知縣本(某支)金庫

一金何程

內金何程

一金何程

一金何程

內金何程

一金何程

內金何程

一金何程

內金何程

合計金何程

內

金貨何程

銀貨何程

紙幣何程

兌換銀券何程

白銅貨何程

新銅貨何程

送金手形爲換手形何程

明治何年何月何日回送中

某年度歲入金

何總取扱分

某年度備荒儲蓄歲入金

何總取扱分

某年度歲出金

何總取扱分

雜部金

何總取扱分

回送金

何總取扱分

縣ノ財務

丙

金何程

但何月何日何處ノ通知ニヨリ送金

何年何月 某金庫へ發送

右明治何年何月何日現金殘高並ニ回送中ノ分書面之趣無相違受授了シ候也

明治何年何月何日

本(某支)金庫前取扱何々銀行

銀行ノ印

同後取扱何々銀行

何役 某

印

書面之通立會ノ上引繼ナ了シ候也

検査員

官氏名印

目録

- 一 某年度現金出納簿
- 一 何々簿
- 一 某年度歳入證書書
- 一 何々簿

何 何 何 何 冊 冊 冊 冊

右之通無相違受授了シ候也

年月日

(前次取扱銀行役員連署及銀行印押捺検査員具書)

縣令第四十一號

明治三十年八月二日

縣稅滯納處分施行細則左ノ通定ム

但市ニ屬スル縣稅ノ滯納處分ハ本則ニ準シ市長ヲシテ取扱ハシム

縣稅滯納處分施行細則

- 第一條 縣稅ノ滯納者ニ對シ發スル督促狀ハ第一號書式ニ依ル
前項ノ督促狀ハ府縣稅徵收法第五條ニ依リ町村長ニ於テ徵收ヲ爲スモノハ其町村長同法第七條ニ依リ收入命令者ニ於テ直ニ徵收ヲ爲スモノハ其所屬縣出納吏之ヲ發スヘシ
- 第二條 町村長若ハ縣出納吏ハ督促狀指定ノ期限内ニ督促手數料及税金ヲ完納セサルモノアルトキハ其滯納者ノ住所氏名及滯納ノ金額等ヲ郡長ニ報告スヘシ報告後異動ヲ生シタルトキハ其旨尙直ニ報告スルモノトス
- 第三條 縣稅滯納者ノ財産差押ニ關スル事務ハ郡長ヲシテ之ヲ取扱ハシム
- 第四條 縣稅滯納者ノ財産差押ヲ命シタル官吏ニハ左ノ證票ヲ携帯セシム

表
縣稅滯納者
財産差押
證票

愛知縣

第 號	裏
縣稅滯納者	官 氏 名
財産差押	
證票	

第五條 督促狀發付後財產差押前滯納者又ハ第三者ニ於テ督促手数料及税金ヲ完納セントスルトキハ徵稅令書若ハ徵稅傳令書ニ縣出納吏若ハ町村長ノ承認ヲ得テ縣稅徵收法施行細則第八條ノ手續ヲ爲スヘシ

徵收期日後督促狀接受前ニ於テ税金ヲ完納セントスルトキ亦前項ニ同シ

財產差押後公賣前ニ於テ滯納者又ハ第三者ニ於テ滯納處分費及税金ヲ完納セントスルトキハ其旨郡長ニ申告シ其金額ヲ納付スヘシ

第六條 財產差押ノ命令ヲ受ケタル官吏ノ調製スヘキ差押調書ハ第二號書式ニ依ル

第七條 債權ノ差押ヲ爲ストキ債務者ニ對シ發スル差押ノ通知書ハ第三號書式ニ依ル

第八條 滯納處分費ノ辨納金ハ各其經費所屬ノ經濟ニ收入スヘシ

第九條 滯納處分ニ關スル書類ノ送達ヲ爲ストキハ第四號書式ノ送達書ヲ添付スヘシ

第十條 滯納處分ヲ終了シタルトキ滯納者ニ交付スヘキ計算書ハ第五號書式ニ依ル

第一號書式 用紙寸方適宜

督促	第一「何」號	住所	名
	何「年」度	縣	稅
	「金」何程	〔地租稅〕〔營業稅〕 〔雜稅〕〔營業稅附加稅〕	
	內	〔前〕〔后〕〔半期〕〔何月〕〔分〕	
	「金」何程	滯納稅金	
	「金」何程	〔何稅〕	
	「金」何程	〔何稅〕	
	「金」五錢	督促手数料	

狀

右「何」月「何」日限「何」町村收入役又ハ「何」郡役所「縣出納吏」ハ拂込ム（納付ス）ヘシ若シ其期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ

〔何〕町村長 氏 名 印）
（縣出納吏官 氏 名 印）

第二號書式（用紙適宜）

差押調書

〔通貨〕

〔何々〕

何國何郡市町村大字何々番

〔此地價金何程〕

〔此地租金何程〕

〔本地ハ何國何郡市町村何某ヘ一ケ年地代金何程ニテ何年何月何日ヨリ向フ何個年間貸與シアリ〕
〔以下之ニ倣ヒ列記ス〕

右ハ「何郡市町村某」何「年度」前後期「何月」分「何」税金「何程」滯納ニ付「何」月「何」日「本人」〔又ハ〕本人不在ニ付同居家族何某〔立會ノ上〕〔國稅徵收法第二十一條ノ立會人ヲ記載ス〕前記ノ財產ヲ差押ナル者也

年 月 日 「何所」ニ於テ此調書ヲ作ル

〔官 氏 名 印〕
何郡町村大字何々番戶
立會人「何 某」印

備考 本調書ハ一通ヲ作り契印シ其一通ヲ立會人ニ交付スルモノトス
第三號書式

債權差押通知書

「何那市町村大字何々番戸」

債權者 「何 某」

「何那市町村大字何々番戸」

債務者 「何 某」

徴收金額

一金「何程」

内

金「何程」

金「何程」

税 金 滯納處分費

前記金額徴收ノ爲メ明治「何」年「何」月「何」日（債務ノ期限ナキ債務ノ場合ニハ年月日ヲ省ク）債務者ヨリ支拂フヘキ「何々」金「何程」
（又ハ金「何程」ノ内金「何程」）差押フルニ付明治「何」年「何」月「何」日マテニ本官ニ支拂フヘキモノト
ス此ノ通知ヲ受ケタル後債權者ニ對シ支拂ヲ爲スモ其支拂ハ無効タルヘシ

年 月 日

那 長 氏 名 印

何那市町村大字何々番戸

何 某 宛

備考 債務者官廳ナルトキハ其仕拂命令官氏名法人ナルトキハ其法人ノ名ヲ記入スルモノトス
第四號書式 用紙適宜

送 達 書

一（送達スヘキ書名）

一 冊

一（同）

一 通

右使丁ヲ以テ「愛知縣何那市町村大字何

何番戸何某」へ送達セシムル者也

年 月 日

役所印

（「何」那市町村長 氏名印）
（縣出納吏官 氏名印）

受取人ノ
署名捺印

送達シタル
月日時場所

受取人ナキトキ若ハ
受取人署名捺印ヲ拒
ミタルトキハ其郡山

右致送達候也

使丁 「何 某」印

割印

送 達 書

一（送達スヘキ書名）

一 冊

一（同）

一 通

右使丁ヲ以テ「愛知縣何那市町村大字何

受取人ノ
署名捺印

送達シタル
月日時場所

縣ノ財務

何番戸何某へ送達セシムル者也

年月日 役場若ハ 役所印

(何)郡町村長 氏名印
(縣出納吏官 氏名印)

受取人ナキトキ若ハ 受取人署名捺印ヲ拒ミタルトキハ其事山

右致送達候也

使丁 (何)某印

第五號書式 (用紙半紙野紙)

計算書

〔何郡市町村大字何番戸〕

滞納者 (何) 某
收 入 高

差押通貨

〔何々〕公賣代金

〔何々〕公賣代金

支 拂 高

滞納處分費

督促手数料

一金何程
内譯
金何程
金何程
金何程
金何程
内
金何程

金何程
内

金何程

金何程

金何程

内

金何程

金何程

殘金何程

右之通候也

年月日

訓令第七十六號

明治三十年十一月二十二日

郡長 氏 名 印

債權者何某交付額

元 金

自何年何月何日

至何年何月何日

滞納税金

何々 税

何々 税

滞納者へ還付スヘキ分

内務部
郡市役所
町村役場

縣稅滞納處分取扱手續
縣稅滞納處分取扱手續

第一條 縣稅ノ滞納處分ハ令規ニ基キ尙左ノ各條ニ據リ取扱フヘシ

縣ノ財務

第二條 町村長及縣出納吏ハ縣稅滯納額整理簿ヲ設ケ縣稅ノ徵收期限ヲ過キ完納セサルモノ、住所氏名稅目金額所屬年度等ヲ徵稅簿ヨリ轉記シ滯納額ノ整理ヲ爲スヘシ

第三條 町村長及縣出納吏ハ第二條ノ整理簿ニ基キ縣稅滯納處分施行細則第一條ノ様式ニ依リ督促狀ヲ調製シ該簿ト契印ヲ爲シ週クモ徵收期限后三日以内ニ之ヲ發付スヘシ

前項督促狀ニハ五日以内ニ於テ納付期日ヲ指定スルモノトス

第四條 第三條ノ督促狀ハ稅目毎ニ各通ヲ調製スルモノトス但一納稅人ニシテ數種ノ稅金ヲ納ムヘキ者ニ對シ同時ニ發スル督促狀ハ數稅目ヲ列記シ一通ニ調製スルコトヲ得

第五條 縣稅滯納處分施行細則第二條ノ報告ニハ左ノ事項ヲ記載シ督促狀指定ノ期限後二日以内ニ差出スモノトス

一 滯納ノ稅目金額所屬年度及滯納者ノ住所氏名

二 督促狀ニ記載シタル納付期限

三 督促狀ノ發付及其送達濟ノ年月日

前項報告書ヲ差出シタル後誤謬脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨即時報告スルモノトス財產差押前ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手數料及稅金ヲ徵收シタルトキ亦同シ

第六條 郡長ニ於テ縣稅滯納處分施行細則第二條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ財產差押命令簿ニ其稅目金額所屬年度滯納者ノ住所氏名等ヲ登記シ速ニ所屬官吏ヲシテ財產差押ノ處分ヲ執行セシムヘシ第十五條ニ依リ他ヨリ滯納處分ノ囑託ヲ受ケタルトキ亦同シ

第七條 縣稅滯納處分施行細則第四條ノ證書ハ豫メ其携帶セシムヘキ官吏ノ氏名ヲ具シ必要ノ員數ヲ縣廳ニ請求スヘシ但毀損又ハ不用ニ歸シタル證書ハ其事由ヲ記シ還納スルモノトス

前項證書ヲ紛失シタルモノアルキハ其事由ヲ詳記シ速ニ縣廳ニ報告シ同時ニ所轄警察署ニ通知スヘシ

縣廳ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ該證書ノ無効タルコトヲ公示スルモノトス

第八條 町村長若ハ縣出納吏ハ縣稅滯納處分施行細則第五條第一項第二項ニ依リ納稅ノ承認ヲ請フモノアルトキハ徵稅令書若ハ徵稅傳令書ニ左ノ裏書ヲ爲シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付スルモノトス
本日限リ拂込ヲ承認ス

職印

明治何年何月何日

第九條 郡長ニ於テ縣稅滯納處分施行細則第五條第三項ニ據リ滯納處分費及稅金完納ノ申告ヲ受ケタルトキハ縣出納吏ヲシテ其現金ヲ領收セシムヘシ

前項滯納處分費及稅金ヲ完納シタルトキハ其財產ノ差押ヲ解除スルモノトス

第十條 他ノ滯納處分ノ囑託ヲ爲サントスルトキ其縣内ニ係ルモノハ直ニ縣外ニ係ルモノハ縣廳ヲ經テ各滯納處分ヲ爲スヘキ地ノ郡市長若ハ縣出納吏ニ囑託スヘシ但縣外ニ係ルモノニシテ滯納處分ヲ爲スヘキ地ノ郡市長若ハ縣出納吏ニ直ニ囑託スヘキコト豫メ指定シタルモノハ縣廳ヲ經由スルノ限ニアラス

第十一條 第十條ニ依リ滯納處分ノ囑託ヲ爲サントスルトキハ其囑託書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 滯納者ノ住所氏名

二 滯納ノ稅目金額所屬年度及徵收期限

三 督促狀ノ手數料額

四 督促狀ノ送達又ハ公示ノ年月日

五 滯納處分表ニ記載ヲ要スル事項ノ回報方

六 右之外必要ト認ムル事項

縣ノ財務

第十二條 縣廳ニ於テ第十條ニ依リ郡長ヨリ縣外ニ係ル滞納處分ノ囑託書ヲ受ケタルトキハ速ニ囑託
先ノ府縣知事ニ移牒スルモノトス

第十三條 縣廳ニ於テ他府縣ヨリ滞納處分ノ囑託書ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ郡市長ニ送達スルモノ
トス但直接郡市長ニ囑託スヘキコトヲ豫メ協定シタルモノハ此限ニアラス

第十四條 他ノ滞納處分ノ囑託ヲ爲シタル後其處分完了ノ通報ヲ得サル以前ニ於テ處分費及税金ノ完
納ヲ申出タルモノアルトキハ受託者ニ處分進行停止方ヲ通知シ同時ニ處分ニ要シタル費用ノ計算ヲ
求メ滞納者ヲシテ税金ト共ニ之ヲ納付セシメ其費用ハ受託者ヘ辨償シ或ハ囑託ヲ解クヘシ

第十五條 郡市長ハ他ヨリ滞納處分ノ囑託ヲ受ケ其處分完了シタルトキハ其徴收シタル金額ノ内ヨリ
處分費及税金送付ニ係ル費用ヲ控除シ其殘金ヲ囑託者ニ返付スヘシ但本項ニ依リ控除シタル處分費
及税金送付ニ係ル費用ニ對シテハ領收證書ヲ製シ同時ニ回送スルモノトス

前項處分完了前滞納者又ハ第三者ヨリ處分費及税金ノ完納ヲ申出タルモノアルトキハ一時其處分ノ
進行ヲ停止シ其者ヲシテ直テニ囑託者ニ之ヲ納付セシメ同時ニ其旨ヲ囑託者ニ通知スヘシ此場合ニ
於テ處分費ヲ要シタルモノアルトキハ其金額ヲ計算シ其償還ヲ求ムルモノトス

第十六條 他ノ滞納處分ノ囑託ヲ爲シタルモノニシテ税金送付ニ係ル費用ヲ控除シタル殘金ノ回付ヲ
受ケタルトキハ所屬經費ヨリ該費用ヲ支出シ其不足額ヲ補填收納スルモノトス

第十七條 國稅徵收法第十三條ニ依リ不動產若ハ船舶ヲ差押タル場合ニ於テハ同法施行規則第二十五
條ノ手續ヲ爲シ同時ニ債權者ノ有無ヲ調査スヘシ

第十八條 國稅徵收法施行規則第三十三條ノ見積價格書ハ郡長ニ於テ之ヲ調製スルモノトス

第十九條 郡長ハ差押財產ヲ賣却セントスル場合ニ於テ其價格ヲ見積難キモノアルトキハ適當ナル鑑
定人ヲ撰ニ其評價ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 入札ノ方法ヲ以テ差押財產ヲ公賣スル場合ニ於テ國稅徵收法施行規則ニ掲ケサル事項ハ明
治二十八年十月訓令第八十八號縣ノ經濟ニ屬スル物件賣買貸借修繕規程ヲ準用スヘシ

競賣ノ方法ヲ以テ差押財產ヲ公賣スル場合ニ於テハ競賣人ヲ撰ニ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十一條 差押財產ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公
賣ニ付スヘシ

第二十二條 差押財產ヲ再度ノ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其價格見積價格ニ達セサルトキ
ハ左ノ要件ヲ具シ買上方ヲ知事ニ稟申スヘシ

- 一 差押財產ノ名稱種類數量性質重要ナル事情並ニ所在ヲ明ニスル事項
- 二 三番札マテノ入札代價並ニ其入札人ノ住所氏名
- 三 第十八條ノ見積價格
- 四 差押財產上ニ縣稅ノ納期限ヨリ一ヶ年以前ニ質權又ハ抵當權ノ設定アルトキハ其債權額及債權
者ノ住所氏名
- 五 右ノ外必要ト認ムル事項

第二十三條 郡長ハ第二十二條ノ稟申ニ對シ買上ノ許可ヲ得タルトキハ該代金ヲ請求シ其交付ヲ受ケ
タル後該物件ヲ主管ノ官吏ニ引渡スモノトス

第二十四條 國稅徵收法施行規則第三十條第二項ニ係ル殘餘金アルトキハ其事由及保證金ニ對スル收
支ノ計算ヲ示シタル報告書ヲ調製シ即日縣廳ニ差出スヘシ

縣廳ニ於テ前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ縣經濟ヘ收入ノ手續ヲ爲スモノトス

第二十五條 差押財產ノ賣得金差押ヘタル通貨及町村ノ收入ニ屬スル督促手数料其他財產公賣ニ係ル
保證金等ハ別ニ定ムル所ノ歳入歳出外ニ係ル現金取扱手續ニ據リ之ヲ處理スヘシ

第二十六條 國稅徵收法第二十八條第二項ニ依リ滯納者ノ財産費却代金ヨリ其負債金額ニ充ツルマテ
ヲ質權者又ハ抵當權者ニ交付セントスル場合ニ異議ヲ申出ルモノアルトキハ其事由ヲ質權者又ハ抵
當權者ニ通知シ其和解又ハ裁判確定ノ上之ヲ交付スヘシ

第二十七條 國稅徵收法第三十一條第一項ニ該當スル場合ニ於テ縣ノ損失ニ歸シタル税金及處分費
ルトキハ一ヶ月毎ニ取纏メ翌月五日マテニ事山ヲ具シ其缺損額ヲ知事ニ報告スヘシ
前項ノ場合ニ於テ町村ノ收入ニ屬スヘキ督促手数料ニシテ缺損ニ歸シタルモノアルトキハ郡長ヨリ
其旨關係町村長ニ通達スヘシ

第二十八條 税金ヲ其徵收期限内ニ完納セサルモノアリテ滯納處分ノ手續ヲ爲シタルモノハ總テ縣稅
滯納額整理簿若シクハ財産差押命令簿ヲ基礎トシ縣稅滯納處分表ヲ調製シ町村長若シクハ縣出納吏
ハ翌年度五月十五日迄ニ郡長ニ郡長ハ六月二十五日迄ニ知事ニ差出スヘシ(三一訓二一改正)
縣廳ニ於テ前項滯納處分表ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ大藏大臣ヘ報告ノ手續ヲ爲スモノトス

縣令第四十二號

明治三十年八月二日

本縣ニ於テ市町村立小學校教員退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキモノニシテ其料金ヲ受領セントスルトキ
ハ各支給期月ノ初メニ於テ退隱料若クハ扶助料證書ヲ市町村長ニ差出シ査閱ヲ受ケ同時ニ別紙書式ノ
請求書ヲ調製シ市町村長ノ與書證明ヲ得テ縣廳ニ差出スヘシ但其料金ハ現住地區域ノ縣金庫ニ於テ交
付スヘキニ依リ若該金庫ヲ不便トシ區域外ノ縣金庫ニ於テ受領セントスルモノハ其縣金庫ヲ指定シ前
以テ届置クヘシ

(別紙)

證書第何號

請求書

年額金何程

一金何程

但市町村立小學校教員退隱料(扶助料)明治何年何月ヨリ何月ニ至ル三ヶ月分
右御渡相成度候也

年月日

知事宛

訓令第五十五號

明治三十年八月二日

郡市役所
町村役場

何市(郡)何町(村)(大字何々)何番戶

元何小學校教員(何某寡婦)

何某

右
何某印

市町村立小學校教員退隱料又ハ扶助料受領者本年縣令第四十二號ニ依リ退隱料又ハ扶助料證書並料金
ノ請求書ヲ差出シタルトキハ證書ヲ査閱シ請求書ニ左ノ與書證明ヲ爲スヘシ
右退隱料(扶助料)證書査閱候處本人義當市(町村)戶籍簿ニ現在ノ生存者ニシテ前記料金ノ受領權
ルモノニ相違無之候也

年月日

何市(郡)何町(村)長何某印

第二百十號 (訓令)

明治三十年八月二日

內務部
警察部
監獄署
監獄支署

縣ノ財務

金庫藏置品出納取扱手續左ノ通定ム

金庫藏置品出納取扱手續

- 第一條 内務部警察部監獄署ニ於テ保管スル公債證書其他ノ有價證券及現金ハ總テ之ヲ金庫ニ藏置スヘシ仕拂切符ノ債主ニ交付未済ニ係ルモノアルトキ亦同シ
- 一時取扱ニ係ル現金公債證書及仕拂命令仕拂切符ノ交付未済ニ係ルモノハ別ニ堅牢ナル函内ニ收藏シ各主管部署長ハ主務ノ課長及當該取扱主任ト共ニ之ニ封印シ前項ノ手續ヲ爲スモノトス
- 第二條 金庫藏置品ノ取扱主任者ハ出納簿ヲ設ケ其出納ニ關スル一切ノ事項ヲ明細ニ登記スヘシ
- 金庫藏置品出納ヲ要スルトキハ其取扱主任ニ於テ出納ヲ要スヘキ決議書其他ノ証憑書類ニ依リ種目數量及金額出納ノ事由等ヲ明細ニ出納簿ニ登記シ課長ヲ經テ主管部署長ノ檢印ヲ受ケ其立會ヲ得テ出納ヲ執行スヘシ但一時取扱ニ係ル現金公債證書若ハ交付未済ニ係ル仕拂命令仕拂切符ノ出納ハ第三條ニ依ルモノトス
- 第三條 一時取扱ニ係ル現金公債證書若ハ交付未済ニ係ル仕拂命令仕拂切符ヲ收藏スル函ハ部署長ノ面前ニ於テ主務ノ課長之ヲ開封シ出納簿ニ照シ當該取扱主任ト共ニ其現在高チ檢定シ該取扱主任ニ交付シテ其出納ヲ取扱ハシメ其日ノ出納ヲ了リタルトキハ出納簿ト共ニ之ヲ部署長ニ提出シ其檢査ヲ受ケ第一條第二項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 主務ノ課長ニ於テ文書往復主任ヨリ公債證書金券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ當該取扱主任ヲ立會セシメ憑書ニ照シ之ヲ收受シ直ニ第二條ノ手續ヲ爲サシムヘシ
- 第五條 金庫ノ鎖鑰ハ堅牢ナル函ニ收藏シ主管部ニ署長ハ主務ノ課長ト共ニ封印シ課長ヲレテ之ヲ管守セシムヘシ但退廳後ハ宿直員ノ管守ニ付スルコトヲ得
- 前項鎖鑰ヲ收藏スル函ノ鎖鑰ハ主務課長常ニ之ヲ保管シ如何ナル場合ト雖本手續規定以外ノ者ニ交

付スルコトヲ得ス

- 第六條 金庫ヲ倉庫内ニ裝置スルハ主務課長其倉庫ノ鎖鑰ノ保管者ヲ撰定シ之ヲ管守セシムヘシ
- 第七條 金庫ハ主管部署長ノ臨場アルニアラサレハ之ヲ開閉スルコトヲ得ス
- 金庫ノ開閉ヲ要スルトキハ當該取扱主任者二名以上及主務課長臨席スヘシ但第六條ノ場合ニ於テハ其鎖鑰ノ保管者立會スルモノトス
- 第八條 主務ノ課長ハ日誌ヲ設ケ金庫藏置品ノ出納ニ關係シタル吏員ヲシテ其出納ヲ爲シタル種目數量及出納ノ事由等ノ要領ヲ記載シ各自記名調印ヲ爲サシメ部署長ノ閱覽ニ供スヘシ
- 第九條 主管部署長ハ本手續ニ依リ出納ヲ爲シタル正當受取人ノ領收證書其他ノ証憑書類ヲ毎月一回帳簿ニ照シ檢査スヘシ
- 第十條 主管部署長ハ毎年二回以上金庫藏置品ノ現在高ヲ帳簿ニ照シ檢査スヘシ但臨時必要ト認ムルハ何時ニテモ檢査スルコトヲ得
- 第十一條 部署長事故アルハ其事務ヲ代理スルモノヲシテ本手續ニ規定スル部署長ノ事務ヲ取扱ハシム主務課長事故アルハ亦同シ
- 前項ノ場合ニ於テ其代理者ハ代理中執行シタル事項ニ關シ其責任ヲ免ル、コトヲ得ス
- 第十二條 内務部ニ設備スル金庫ハ内務部第四課ニ於テ之ヲ管理スヘシ
- 警察部監獄署ニ設備スル金庫ノ主管ハ警察部長監獄署長適宜之ヲ定メ報告スヘシ
- 第十三條 預金規則等ニ依ル金庫ノ保管證書ヲ藏置スル部分ノ鎖鑰及出納手續ハ別ニ定ル所ニ依ル
- 第十四條 監獄支署ニ於テハ本手續ニ規定スル監獄署長ノ事務ハ支署長ニ於テ之ヲ取扱フヘシ
- 第十五條 日本赤十字社其他公共團體ノ所有ニ係ルモノニシテ其依託ヲ受ケ保管スルモノ、出納ハ總テ前各條ニ依リ取扱フヘシ

縣令第四十八號

明治三十年八月三十日

臨時縣會ノ議決ヲ經テ市部郡部ニ屬スル經濟ハ明治三十一年度所屬ノ分ヨリ左ノ通分別ス

市部ニ屬スル事項

- 一 歳入 豫算 入 但市部ニ屬スルモノ
- 一 警察 費 但名古屋市警察ニ屬スル諸費
- 一 警察廳舎建築費 但同上
- 一 警察廳舎修繕費 但同上
- 一 土木 費 但名古屋市ニ屬スル土木諸費
- 一 縣會議 諸費 但市部議員市部縣參事會員ニ係ル諸費
其他市部ニ屬スル諸費
- 一 難破船 諸費 但名古屋市ニ屬スル諸費
- 一 諸選書及揭示諸費 但同上
- 一 衆議院議員選舉費 但名古屋市選舉ニ屬スル諸費
- 一 縣吏員 費 但市部ニ屬スル諸費
- 一 財產 費 但縣有財產ノ内市部ニ屬スル諸費
- 一 豫備 費 但市部ニ屬スルモノ
- 一 縣會議員選舉費 但名古屋市選舉ニ屬スル諸費(三三縣六二追加)
- 一 前掲歳入歳出豫算各科目ニ關聯ノ事件
- 一 浪越公園 費

郡部ニ屬スル事項

- 一 歳入 豫算 入 但郡部ニ屬スルモノ
- 一 歳出
- 一 警察 費 但各郡警察ニ屬スル諸費
- 一 警察廳舎建築費 但同上
- 一 警察廳舎修繕費 但同上
- 一 土木 費 但各郡ニ屬スル土木諸費
- 一 木曾川 改修費
- 一 縣會議 諸費 但郡部議員郡部縣參事會員ニ係ル諸費
其他郡部ニ屬スル諸費
- 一 郡廳舎建築費
- 一 郡廳舎修繕費
- 一 郡吏員給料旅費及廳中諸費
- 一 難破船 諸費 但各郡ニ屬スル諸費
- 一 諸選書及揭示諸費 但各郡ニ屬スル諸費
- 一 縣稅取扱費 但郡部ニ屬スル諸費
- 一 衆議院議員選舉費 但各郡選舉ニ屬スル諸費
- 一 縣吏員 費 但郡部ニ屬スル諸費
- 一 財產 費 但縣有財產ノ内郡部ニ屬スル諸費
- 一 縣債 費 但明治二十三年度起債ノ分及將來郡ノミニ對シ起債ノ分共

縣ノ財務

- 一 郡町村土木補助費 但各郡ニ屬スルモノ
- 一 豫備費 但郡部ニ屬スルモノ
- 一 縣會議員選舉費 但各郡選舉ニ屬スル諸費(三二縣六二追加)
- 一 前掲歳入歳出豫算各科目ニ關聯ノ事件
- 一 縣稅賦課徵收方法
- 一 營業稅雜種稅課目課額

縣令第四十九號

明治三十年八月三十日

臨時縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ認可ヲ得テ縣ノ支出ニ充ツヘキ縣稅市部郡部分賦並ニ收入割合規程左ノ通相定メ明治三十一年度所屬ノ分ヨリ之ヲ施行ス

縣ノ支出ニ充ツヘキ縣稅市部郡部分賦並ニ收入割合規定

第一條 府縣制第七十一條第一項ニ依リ縣歳出ニ充ツヘキ縣稅ノ市部郡部分賦ノ割合ヲ定ムル左ノ如シ

- 警察 費
- 警察廳舍建築費
- 警察廳舍修繕費
- 衛生及病院費
- 衛生補助費
- 教育 費
- 郡市町村教育補助費
- 教育補助費
- 救育 費

- 諸達書及揭示諸費
- 勸業 費
- 勸業補助費
- 縣稅取扱費
- 縣廳舍建築費
- 縣廳舍修繕費
- 縣監獄 費
- 縣監獄建築費
- 縣監獄修繕費
- 徵發物件輸送費
- 財產 費
- 豫備 費
- 以上人口ヲ以テ率トス
- 土木 費
- 熱田海城濠設ハ人口、尾頭橋設ハ市部十分ノ二分五厘郡部十分ノ七分五厘古渡橋、惣兵衛川橋、三股橋、費ハ市郡各十分ノ五ヲ以テ率トス
- 縣會議諸費
- 縣會議中建築費修繕費ハ人口、縣參事會議費中諸費及議場費ハ會員定數其他ハ議員定數ヲ以テ率トス
- 縣吏員 費
- 人口ヲ以テ率トス熱田海城濠ニ關スルモノハ市部ハ百分ノ四十二郡部ハ百分ノ五十八ヲ以テ率トス
- 縣債 費

明治二十五年同二十六年及同二十九年年度起債ニ係ルモノハ市郡風水災土木費及土木補助費ノ總額ヲ以テ率トシ熱田
 灣築港費ニ關スルモノハ市郡ハ百分ノ四十二郡部ハ百分ノ五十八ヲ以テ率トス
 師範學校同附屬小學校、縣廳舎、警察部、縣會議事堂ノ建築費ニ充ツルモノハ人口ヲ以テ率トス(三三縣六三追加)

熱田灣築港費
 市郡ハ百分ノ四十二郡部ハ百分ノ五十八ヲ以テ率トス

郡市町村土木補助費(三三縣四五追加)
 庄内用水普通水利組合ノ施工ニ係ル用水以前費及補償補助ハ市ハ千分ノ二十四郡ハ千分ノ九百七十六ヲ以テ率トス
 猫ヶ洞用水普通水利組合ノ施工ニ係ル補償補助ハ市ハ千分ノ百七十六郡ハ千分ノ八百二十四ヲ以テ率トス

第二條 縣收入中市郡分賦額ヲ除キ市郡部收入割合ヲ定ムル左ノ如シ
 財產 收入
 國庫下渡金
 以上人口ヲ以テ率トス
 財產 賣拂代

雜 收入
 熱田灣築港ノ爲メ生スルモノ並ニ築港費ノ財源ニ充テタルモノハ市郡ハ百分ノ四十二郡部ハ百分ノ五十八ヲ以テ率トシ
 其他ハ人口ヲ以テ率トス
 學生貸費還金、年賦貸下返納金及賦金ハ人口ヲ以テ率トシ其他ハ第一條各費目ノ率ニ依ル

第三條 人口及議員數ハ通常會ヲ開ク年ノ最近數ニ依ル
 第四條 前各條ハ特ニ改正補補ヲ要スルコトアルニアラサレハ數年通シテ施行スルモノトス
 縣令第二十七號
 明治三十一年九月十九日

臨時縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ認可ヲ得テ熱田灣ヨリ衣ヶ浦灣ニ通スル運河測量ニ要スル費用ニ充ツ
 へキ縣稅ノ市郡郡部分賦割合左ノ通相定ム

土木費ノ内熱田灣ヨリ衣ヶ浦灣ニ通スル運河測量ニ要スル費用ノ市郡分賦割合ノ率ハ人口ニ據ルモノトス
 縣令第六十三號
 明治三十年十二月六日

明治二十七年七月縣令第五十號席貸茶屋及娼妓賦金徵收規則左ノ通改正シ明治三十一年一月一日ヨリ
 施行ス
 席貸茶屋娼妓賦金徵收規則

第一條 席貸茶屋及娼妓ノ賦金ハ毎月一日現在ノ營業者ニ賦課ス
 第二條 賦金ハ左ノ區別ニ從ヒ前月分ヲ翌月十日限り納付スヘシ但納期休暇日ナルトハ其前日ヲ期限
 トス(三三縣二五改正)

等級	組合内等級	茶屋		娼妓	
		一ヶ月賦金	組合内等級	一ヶ月賦金	組合内等級
一等地	一	拾參圓	一	七圓	一
	二	九圓	二	五圓	二
	三	五圓	三	參圓五拾錢	三
二等地	一	七圓	一	四圓	一
	二	四圓	二	參圓	二
	三	參圓	三	四圓	三
三等地	一	五圓	一	參圓	一
	二	參圓	二	貳圓五拾錢	二
	三	貳圓	三	圓	三

第三條 席貸茶屋及娼妓免許ノ地ヲ分チ左ノ三等トス
 縣ノ財務
 四三三

一等地 名古屋市若松町 同花園町
 二等地 名古屋市城代町 同東角町 渥美郡豐橋町大字札木
 三等地 名古屋市富岡町 同吾妻町 同常盤町 同音羽町 渥美郡豐橋町大字傳馬
 額田郡岡崎町大字傳馬及大字板屋 愛知郡熱田町大字傳馬
 第四條 各組合内ノ等級ハ取縮及營業者ニ於テ協議第五條ニ依リ其等級ヲ定メ所轄市ニ在テハ市長町
 村ニ在リテハ那長ニ届出ヘシ但等級ヲ變更シタルモ其都度届出ヘシ
 第五條 各組合内ノ等級ハ少クモ左ノ割合ヲ限度トシ適宜之ヲ定ムヘシ
 一 各等地ノ一等ハ各組合内營業者總數ノ十分ノ一二等ハ各組合内營業者總數ノ十分ノ二其殘餘ヲ
 三等ノ者トス
 二 額田郡岡崎町大字板屋及愛知郡熱田町大字傳馬ノ内字下傳馬ノ席貸茶屋及娼妓ハ總テ三等地ノ
 三等トス
 算出上端數ヲ生シタルモハ四捨五入トス
 第六條 新規開業ノ者ハ其月分ニ限リ其等級末等ノ額ニ依リ其月十五日以前ニ在テハ全額、十六日以
 后ニ在テハ半額ヲ納ムヘシ(三一縣二五改正)
 第七條 席貸茶屋ノ營業讓受ハ前營業者ノ等級ニ依リ其月分ノ賦金ハ營業讓受者ヨリ納ムヘシ(ク)
 第八條 等級ヲ變更シタルモノ、賦金ハ其翌月ヨリ變更ノ等級金額ニ依リ納ムヘシ(ク)
 第九條 廢業又ハ他ノ免許地ニ移轉シタルモノ、賦金ハ第二條ノ期限ニ拘ラス納入告知書ニ記載シタ
 ル期日ニ依リ舊營業地ニ於テ全額ヲ納付スヘシ(ク)
 第十條 賦金ハ那市長ヨリ發シタル納入告知書ニ依リ納付スヘシ但惣代人ヲ定メテ届出ラル者ハ其惣
 代人ヨリ納付スルコトヲ得

第十一條 納期ヲ過キ賦金ヲ納メサル者アルモハ那市長ハ督促令狀ヲ發スヘシ
 督促令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ尚納付セサルモハ那市長ハ直ニ營業ノ停止ヲ命スヘシ
 滞納ノ賦金ヲ完納シタルモハ別ニ命令ヲ須キスシテ營業ノ停止ヲ解除セラレタルモノトス
 第十二條 娼妓失踪復歸シタルモハ其月數ニ應ジ失踪中不納ニ係ル賦金ヲ一時ニ徵收ス但其金額ハ失
 踪セシキノ等級金額ニ依ル
 第十三條 死亡シタル娼妓ノ賦金ハ未納ニ係ル分ヲ免除シ娼妓身體檢査規則ニ依リ驅逐院ニ入院又ハ
 休業ヲ命セラレタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ免除ス(三一縣二五改正)
 一 入院又ハ休業ノ日數一ケ月中二十日以上ニ渉ル者ハ全額
 二 入院又ハ休業ノ日數一ケ月中十五日以上ニ渉ル者ハ半額
 第十四條 不慮ノ災害ニ罹リ又ハ疾病等ノ爲メ賦金ヲ納付シ難キモハ其出願ニ依リ特ニ減免又ハ徵收
 ノ猶豫ヲ爲スコトアルヘシ(三一縣二五本條中削除)
 第十五條 (三一縣二五削除)
 第十六條 第二條ノ協議決定額ハ明治三十一年一月十五日迄ニ届出ヘシ
 訓令第八十六號
 明治三十年十二月二十七日

内務部
 警察部
 名古屋市役所
 愛知郡役所
 額田郡役所
 渥美郡役所

門前町警察署
熱田警察署
岡崎警察署
豐橋警察署
驅徴院

明治二十七年七月訓令第二百三十二號席貸茶屋及娼妓賦金徵收規則取扱手續左ノ通改定明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

賦金徵收規則取扱手續

- 第一條 席貸茶屋及娼妓ニ係ル左ノ事項ハ其主管部署院ヨリ速ニ關係郡市役所ニ通報スヘシ
 - 一 營業認可
 - 一 營業讓渡及代換
 - 一 族籍住所氏名及姓名又ハ屋號變換
 - 一 廢業及休業
 - 一 失踪逃亡及復歸又ハ死亡
 - 一 營業者ノ移轉
 - 一 娼妓ノ入退院

第二條 郡市役所ハ規則第四條ノ等級届及前條ノ通報ニ基キ賦金ニ關スル帳簿ヲ整理スヘシ

第三條 (三一訓四二削除)

第四條 納入告知書ハ納期ノ三日以前ニ發付スヘシ(三一訓四二改正)

第五條 規則第九條第十二條ニ係ルモノ、納入告知書ハ第一條ノ通報ニ基キ直ニ發付スヘシ(三一訓

四二本條中及但書削除)

第六條 (三一訓四二削除)

第七條 郡市役所ハ縣内甲免許地ヨリ乙免許地へ移轉スルモノニ對シ賦金ノ納否其他必要ト認ムル事項アルトキハ關係ノ郡市役所ニ通知スヘシ

第八條 郡市役所ハ營業ノ停止ヲ命シタルトキ及被停止者ノ滞納賦金ヲ完納シタルトキハ直ニ關係警察署ニ通報スヘシ

第九條 規則第十四條ニ該當スル者アルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ付シ其願書ヲ進達スヘシ

第十條 督促令狀及營業停止ノ命令書及第一條ノ通報ハ左ノ様式ニ依ルヘシ

督促令狀 (用紙半紙半截)

何郡市町村何番戶

席貸茶屋(席貸茶屋何ノ誰方寄留娼妓)

何ノ誰

三金若干

但何年何月分賦金滞納ノ分

右金額此令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ納付スヘシ若シ其期限内ニ納付セサルトキハ營業ノ停止ヲ命スヘシ

年月日

營業停止命令書 (用紙半紙半截)

何郡市何町村何番戶

席貸茶屋(席貸茶屋何ノ誰方寄留娼妓)

何ノ誰

市郡 長

右何月分ノ賦金納納ニ付賦金徴收規則第十一條ニ依リ其完納ニ至ルマテノ間營業ヲ停止ス
 年 月 日
 署 警察部
 印 區 分 事
 區 分 事
 長
 △印ハ朱世

賦金徴收ニ係ル通報

許 可 月 日	業 區 分 及	名 業 者 氏	籍	妓 名	屋 號 或 ハ	業 所	事	區 分	記	事
明治 年 月 日	△席貸茶屋、娼妓營業	△何 某	△何縣何郡市何町村何番戶 地何々	何 々 々	△何々樓	△何郡市何町村何番戶	移轉ニ係ル業所及其月日	變更ニ係ル屋號、妓名及其月日	△何々樓ノ改稱或ハ何々ト改名 年 月 日	△何郡市何町村何番戶地(轉籍) 年 月 日
	△歸死、廢業、休業ノ月日	△改氏名、營業讓受者氏名及其月日	△族籍ノ變更ニ係ル者或ハ讓受者ノ族籍及其月日							△何々ト改称何某讓受 年 月 日

記載例 一通報事項中必要ナキ件ハ記事ノ欄内へ斜線ヲ施スヘシ

(記事事項本欄内へ記入シ難キ場合ハ別紙ニ記載スルモノトス)

院 驅 徴

何年何月何日入退院人名通知書

部 ノ 院 退				部 ノ 院 入				町 名 席		主 娼 妓 名	
計				計							
何				何							
人				人							

縣立學校書記退職給與金及一時扶助金ニ關スル規則左ノ通定ム

縣立學校書記退職料退職給與金及一時扶助金ニ關スル規則

第一條 縣立學校ノ書記ニハ此規則ニ依リ退職料退職給與金及一時扶助金ヲ給ス但正教員ニアラサル職員ニシテ書記兼務ノ者亦本條ニ準ス

第二條 縣立學校書記左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退職料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷病ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキモノニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲メ退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキモノニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲メ退職ヲ命シタルトキ

第三條 退職料ノ年額ハ退職現時ノ俸給年額二百四十分ノ六十ヲ基トシ左項ノ割合ニ依リ生スル金員ヲ附加シ之ヲ定ム

- 一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
 - 二 前項ニ準スヘキ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
 - 三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
 - 四 前項ニ準スヘキ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
 - 五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
 - 六 前項ニ準スヘキ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二
- 傷病疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷病疾病等差例ニ準據ス兼務ニ依テ受クル加俸ハ退職料年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

退職料年額四位未滿ノ數ハ四位ニ滿タシム

第四條 退職料ヲ受ケスシテ退職シタルモノ在職中職務ニ起因スル傷病疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ退職料ヲ給ス

一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退職後二箇年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退職後三箇年

第五條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ退職料ヲ受クル資格ヲ失フモノトス

一 失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

四 本則ニ依リ退職料ヲ受クル者復タヒ其職ニ堪フルニ至リ知事ヨリ命スル學校ニ就職セス他ノ職務ニ就キタルトキ

左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其間退職料ヲ受クルコトヲ得ス

一 公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二 三箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ

第六條 縣立學校書記在職滿五年以上十一年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給三箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給五箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿十五年ニシテ退職シタル者ハ俸給七箇月分ニ當ル金員ヲ給シ以上滿一年ヲ加フル毎ニ俸給一箇月分ニ當ル金員ヲ増給ス

第三條ニ依リ退隱料ヲ受クル者及自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ前項ノ限リニ在ラス

第七條 縣立學校書記左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキハ此限リニ在ラス

一 在職一年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二 職務ノ爲メ受ケタル傷痕若クハ疾病ニ起因シ死去シタルトキ

三 退隱料ヲ受クルモノ死去シタルトキ

前項第一ニ該當スルモノハ在職最終俸給年額百分ノ一ヲ在職年數ニ乗シタル金員ヲ給シ第二第三ニ該當スル者ハ在職最終俸給年額百分ノ四十ノ金員ヲ給ス

第八條 在職年數ヲ算定スルニハ就職ノ日ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス但一箇年ニ滿タサル月數ハ除算スヘシ

明治十五年一月以前ヨリ在職ノモノハ同年同月ヨリ起算スヘシ

休職中ノ年數及月數ハ在職年數ニ算入スヘシ

縣立學校ノ間交互轉任シタル場合ハ其前勤務年數及月數ハ在職年數ニ算入スヘシ

第九條 退隱料退職給與金及一時扶助金ノ支給ハ退隱料又ハ退職給與金ニアリテハ本人ヨリ請求シ一時扶助金ニアリテハ遺族並ニ親戚二名(親戚ナキトキハ隣ノ月主ニ代)連署請求シ當該學校長ノ證明ニ依リ知事之ヲ裁定ス

第十條 退隱料請求書ニハ左ノ第一乃至第四ノ書類ヲ添付シ退職給與金請求書ニハ第一ノ書類ヲ添付シ一時扶助金ニ於ケル第一第三ノ請求書ニハ第二ノ書類ヲ添付シ其第二ノ請求書ニハ第一乃至第四ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在職中履歷書

二 市町村長ノ證明シタル戸籍調書

三 現認證書若クハ事實ヲ證スル公文ノ寫又ハ口供書

四 醫師ノ診斷書

第十一條 退隱料退職給與金及一時扶助金ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後退隱料及一時扶助金ハ三箇年內退職給與金ハ三箇月內ニ請求セサレハ其資格ヲ失ヒタルモノトス

第十二條 第六條第一項ノ給與金自己ノ便宜ニ依リ之ヲ受ケサル者他日縣立學校書記ノ職ニ就クトキハ前ノ在職年數ヲ以テ退職給與金又ハ一時扶助金等ノ給與上ニ關スル在職年數ニ通算ス但自己ノ便宜ニ依リ給與金ヲ受ケサルコトヲ申立ル場合ハ三箇月內當該學校長ヲ經テ知事ノ承認ヲ受クヘシ

第十三條 退隱料ハ賣渡讓與質入書入スルヲ得ス之ニ違フ者ハ退隱料ヲ受クル資格ヲ失フモノトス

第十四條 退隱料支給ノ期ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

退隱料ハ其年額ヲ四分ノ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ支給ス但退隱料ヲ受クル資格ヲ失ヒタルトキ及退職給與金一時扶助金ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス

第十五條 退隱料ヲ受クヘキ資格ヲ失ヒ若クハ停止セララルヘキ者ノ支給終始ハ左ノ各項ニ依ル

一 失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキハ其確定ノ日禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 第五條第一項第四ニ當ルトキハ職務ニ就キタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

三 公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキハ其給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ停メ其給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

四 三箇年以上受領ヲ怠リタルトキハ受領ヲ怠リタル支給期月ノ翌月ヨリ起算シ其一期ノ支給ヲ廢ス

五 公權ヲ停止セラレタルハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ停メ
 刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
 第十六條 退隱料ヲ受クル者轉居又ハ改氏名等ノ際ハ市町村長ヲ經テ届出ヘシ
 第十七條 火水災盜難等ニ依リ退隱料證書ヲ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再授ヲ請フヘシ
 附則

第十八條 本則ハ明治三十一年四月ヨリ之ヲ施行ス

第三百二十三號 (訓令) 明治三十年十二月二十五日

縣吏員給料及旅費給與金支給方法左之通相定ム

縣吏員給料及旅費給與金支給方法

第一條 道路橋梁堤防工事及砂防調査ノ爲メ設置スル縣吏員ノ月給ハ第一號表ニ依リ支給ス
 第二條 前條縣吏員ノ旅費ハ月手當トシテ第二號表ニ依リ支給ス
 但病氣等凡テ職務ニ從事セサル間ハ日割計算ヲ以テ其額ヲ減ス
 第三條 在職一年未滿ノ者死亡シタルハ當月分給料ノ外尙月給全額一ヶ月分ヲ其滿一年以上ノ者ハ
 二ヶ月分ヲ其遺族ニ給與ス
 在職滿一年以上ノ者自己ノ便宜ニアラスシテ退職シタルトキハ當月分給料ノ外尙月給金額四分ノ一
 ヲ在職年數ノ一ヶ年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ給與ス
 第四條 第一條第三條ニ定ムルモノ、外給料ノ支給方ハ縣稅經濟ニ係ル一般傭員俸給支給ノ例ニ依ル
 第一號表

縣吏員給料表

一	等	二	等	三	等	四	等	五	等	六	等	七	等
貳拾五圓	貳拾圓	拾八圓	拾五圓	拾貳圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓

第二號表

同旅費月手當支給表

一	級	二	級	三	級	四	級	五	級
拾五圓	拾圓	貳圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓

第百五號 (訓令)

明治三十一年三月二十八日

內務部
 警察部
 警察署
 同分署

巡查給與品貸與品細則左ノ通定ム

但明治二十七年六月訓令第百六十七號巡查給與及貸與品規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢ス

巡查給與品及貸與品細則

第一章 給與品

第一條 給與品中冬服以下四品ノ員數及使用期限左ノ如シ

一 冬服一組 四十八ヶ月

- 一 夏服一組 八ヶ月
- 一 下襟六箇 一箇二ヶ月
- 一 靴下十二足 一足一ヶ月

第二條 夏服保存期限ハ其使用期間ヲ通シ十六ヶ月トス

第三條 冬服及夏服ハ常ニ新舊二組宛ヲ所持セシメ其冬服ハ新舊各使用期限夏服ハ同保存期限ノ經過毎ニ調製附與ス

第四條 給與品支給期日左ノ如シ

- 一 帽 毎年六月一日
- 一 冬服 毎隔年十月一日
- 一 夏服 毎年六月一日
- 一 甲種外套(雨覆付) 毎隔年十月一日
- 一 乙種外套 同
- 一 日履 毎年六月一日
- 一 下襟 三箇ハ毎年四月一日
二箇ハ同 四月一日
一箇ハ同 四月一日
- 一 手套 二箇ハ同 十月一日
一箇ハ同 十二月一日
- 一 冬肌着 毎年六月一日
- 一 夏肌着 六足ハ同 四月一日
六足ハ同 十月一日
- 一 靴下 毎年四月一日
- 一 長靴 一足ハ同 四月一日
一足ハ同 十月一日
- 一 短靴 一足ハ同 十月一日

第五條 給與品中下襟、手套、冬肌着、夏肌着、靴下、長靴、短靴ノ七品ハ代料ヲ以テ下付ス其金額ハ毎年別ニ之ヲ定ム

第六條 使用期限又ハ保存期限ヲ經過シタル現品ハ現使用者ニ給與ス

第七條 給與期日後ノ新任、復職、轉職及經濟ヲ異ニスル部署(警察部、市部、郡部)ヨリ詰替ノモノニハ前職者ノ返納品ヲ下付シ其使用又ハ保存期限ヲ繼續セシメ代料下付ニ係ルモノハ殘期ニ對スル月數ニ應シ之ヲ給與ス

第八條 任署詰替ノ場合ハ左ノ各項ニ據ル但經濟同一ノ署ハ本條ノ手續ヲ爲スニ及ハサルモノトス
三二訓一八四改正)

- 一 現品給與ニ係ルモノハ本人ヨリ直接警察部ニ返納セシメ更ニ該經濟所屬ノ相當品ヲ下付ス
- 二 代料給與ニ係ルモノハ殘期ニ對スル過渡額ヲ舊任署ニ返納セシメ更ニ新任署ニ於テ該經濟所屬ノ殘期相當額ヲ支給ス

但教習所卒業ノ上各署ヘ配置スル巡查ニ支給スヘキ該殘期分ニ限リ本廳ニ於テ支給ス

第九條 代料下付金ハ新任、復職、轉職、經濟異ナル部署間ノ詰替、退職、休職、轉任、死亡他府縣ヘ出向等ノ者ニハ總テ月割ヲ以テ支給又ハ返納セシム其異動當月ニ對スル給與等ノ方法左ノ如シ

- 一 支給ヲ受クヘキトキハ十五日前後ヲ以テ區分シ十五日前ニ發令ノ者ハ全月分十六日後ニ係ルモノハ半月分ヲ給ス
- 二 返納スヘキトキモ前項ニ依リ區分シ十五日前ニ辭令接受又ハ死亡ノ者ハ半月分ヲ返納シ十六日後ニ係ル者ハ返納ヲ要セス

第十條 代料下付金月割計算法左ノ如シ

- 一 月割ハ支給月數ヲ全期ニ對スル支給金額ニ乘シ其使用又ハ保存期限ノ月數ヲ以テ之ヲ除ス

二 半月割ハ全期ニ對スル支給額ヲ其使用又ハ保存月數ヲ以テ除シタル算出額ヲ折半ス
 三 月割ト半月割ト併算支給ヲ要スルモ各厘位未滿ノ端數ヲ合算シタル上四捨五入スルモノトス
 四 返納金ハ當初下附額ノ内ヨリ在職月數ニ相當スル支給額ヲ扣除シタル殘額トス

第十一條 帽、冬服、夏服、甲種外套(雨覆)、乙種外套、日覆ノ六品ハ刑事專務巡查ニ限リ左ノ各項ニ據ル
 一 現品ハ任命ノ際下付シ常ニ各一個又ハ一組ツ、所持セシム其保存期限ハ無期トシ實用ニ耐ヘサル時期ヲ待テ代品ヲ下附スルモノトス
 二 前項現品交附ノ外各給與期日毎ニ其代料ヲ給與ス代ノ料額ハ當該年度豫算決議額ニヨル但現品ヲ調製下附シタル時ハ其期間ニ限リ給與セサルモノトス
 三 新任其他異動(轉署ヲ除ク)ノ場合給與及返納并計算方法ハ第七條第九條第十條ノ例ニヨル但冬服及夏服ノ代料ニ限リ各使用期限ノ半期ヲ以テ計算スルモノトス
 四 轉署ノ場合ハ現品及代料トモ舊任署ヘ返納セシムルモノトス

第十二條 退職、休職、轉職(轉任)、轉署(轉任)、死亡及其他府縣ヘ出向者ノ返納品ハ其辭令接受又ハ死亡後五日以内ニ徵收シ警察部ヘ回送スヘシ

刑事專務巡查ノ返納品ハ其著ニ於テ保管シ後人者ニ下附スヘシ

第十三條 現品給與ニ係ルモノハ一定ノ號寸ニ依リ調製下附ス號寸ニ關スル規程ハ警部長之ヲ定ム但本條ノ號寸ニ依リ難キモノアル時ハ特ニ號外ノ寸法ヲ用ニルコトアルヘシ

第十四條 代料下附ニ係ルモノ、物品ハ其給與期日後十五日以内ニ所屬署長ニ於テ検査シ若シ不体裁ノモノアル時ハ使用期限内ト雖モ速ニ交換セシムヘシ

第十五條 帽、冬服、夏服、甲種外套(雨覆)、乙種外套ニハ其裏面見易箇所ニ左ノ証票ヲ附着セシムヘシ
 但証票ハ私費ヲ以テ調製シ返納ノ際ト雖モ除却セサルモノトス

姓名

何年度製

明治何年何月何日受取

署印

地質金巾 長二寸五分以内
巾一寸五分以内

第二章 貸與品

第十六條 貸與品ハ巡查一人ニ一個又ハ一具ツ、ヲ貸與シ常ニ其使用者ニ保管セシムヘシ但保存上ニ要スル費用ハ保管者ノ自辨トス

第十七條 貸與品ハ其用ニ耐ヘサル時期ヲ待テ代品ヲ交附スルモノトス

第十八條 轉署ノ場合ハ總テ舊任署ニ返納セシムト雖モ手帖ニ限リ之ヲ携帯セシムヘシ

第十九條 貸與品ハ各署ノ定員ニ對スル員數ノ外相當ノ豫備品ヲ配置ス其員數及使用ノ場合等ハ警部長之レヲ定ム

附則

第二十條 本則ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第百八號 (訓令)

明治三十一年三月二十九日

內務部 警察部 同署

明治二十七年六月訓令第六十四號俸給及雜給支給規程左ノ通改正來四月一日ヨリ施行ス

俸給及雜給支給規程

第一條 巡查及警察雇ノ俸給並諸雇給ハ他ノ例規ニ據ルノ外仍ホ本規程ニ依リ支給ス

第二條 教習中ニ係ル巡查ノ月俸ハ六圓トス

第三條 警察雇ノ月俸ハ七圓以上拾五圓以下トス其技術ノ爲メ採用スルモノハ拾五圓以上ヲ給スルコトアルヘシ

第四條 轉署ノ場合ハ左ノ通支給スルモノトス

- 一 經濟ヲ異ニスル部署(警察部、市部、郡部、支庁)間ハ支給日ニ拘ハラス舊任署ニ於テ日割ヲ以テ支給ス
- 二 經濟同一ノ署ハ總テ新任署ニ於テ支給ス

但支給日迄ニ出發セサルモノハ舊任署ニ於テ支給ス

第五條 新任、昇級、降級、復職及轉任(經濟異ナル部署トモ)退職者ノ俸給計算法左ノ如シ

- 一 日割法ハ月俸額ニ支給日數ヲ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ之レヲ除ス
- 二 前項ニ依リ生スル厘位未滿ノ端數ハ左ノ例ニヨル

一 新任、復職及轉任(經濟異ナル部署トモ)退職ノトキハ之レヲ切捨ス

一 昇級及降級ノトキハ其前後ニ生スル毛糸忽微マヲ合算シ仍ホ生スル厘位未滿ハ之レヲ切捨ス

第六條 給仕小使水夫工夫等日給額ハ經費豫算ノ範圍内ニ於テ警部長ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムルモノトス

第七條 醫師ヲ使用スルトキハ左ノ程度ニ依リ支給スルモノトス

- 一 死傷者又ハ物件ノ鑑定其他檢案等ノ場合ハ一日金壹圓以内
- 但特ニ手術ヲ要スルモノハ本項ノ外相當ノ手術料ヲ給スルコトヲ得
- 二 押送囚及留置人ノ疾病診察ノ場合ハ一度金參拾錢以内

第八條 鑑定及探偵等ノ爲メ使用スルモノハ一日金壹圓以内ヲ支給スルモノトス

但特ニ技術ヲ要スルモノハ本條ノ外相當ノ技術料ヲ給スルコトヲ得

第九條 諸帳簿類裝綴等ノ爲メ使用スル職工ハ一日金四拾錢以内ヲ支給スルモノトス

但冊數ヲ以テ受負ハシムルモノハ其受負額ニ依リ

第十條 人力車其他人夫ヲ使用スルトキハ左ノ程度ニ依リ支給スルモノトス

- 一 人力車ハ其器ニ於テ認可シタル賃額
- 二 書狀交付人ノ類ハ人力車賃額ニ準ス
- 三 掃除人ノ類ハ一日金三拾錢以内

第十一條 已未決囚護送途中乗用セシムル氣車及氣船ハ總ヘテ下等賃價ニ限ルモノトス

第十二條 第七條第八條各但書ノ場合ハ警部長ハ稟議スヘシ

縣令第十三號 明治三十一年三月三十日

明治二十九年一月縣令第三號家屋稅營業稅雜稅取銷規則左ノ通り改正ス

營業稅雜稅取銷規則

第一條 營業稅雜稅ニ係ル事項ニシテ左ノ一ニ該當スルトキハ其時々郡長ニ届出ヘシ但一乃至四ニ

該當スルモノハ其課稅ノ要件ヲ記載スヘシ

- 一 營業ヲ開始シ又ハ水車、船車、馬車所有シ其他總テ納稅義務ノ生シタルトキ
- 二 營業稅法ニ依リ營業者ニシテ課稅標準ノ變更ニ依リ縣稅ノ範圍内ニ移リタルトキ
- 三 營業其他課稅標準ノ異動ニ依リ稅額ノ増加シタルトキ
- 四 兼業又ハ轉業ヲ爲シタルトキ
- 五 轉居(其町村大字内ニ係ルモノヲ除ク)又ハ改氏名ヲ爲シタルトキ

- 六 營業主又ハ水車、船、車、馬ノ所有者變更シタルトキ
- 七 船舶ノ定額場ヲ變更シタルトキ
- 八 納稅義務ノ消滅シタルトキ
- 九 營業其他課稅標準ノ異動ニ依リ稅額ノ減少シタルトキ
- 第二條 金高ノ標準ニ依リ年稅ノ賦課ヲ受クヘキ營業者ニシテ左ノ第一及第二ニ該當スルモノハ毎年一月二十日マテニ第三ニ該當スルモノハ毎年四月七日マテニ各其課稅標準額ヲ郡長ニ届出スヘシ
 - 一 前年中引續營業ノモノハ前年一ケ年中ノ金額
 - 二 前年中營業ヲ開始セシモノハ開業ヨリ其年十二月マテノ金額
 - 三 毎年一月以降三月マテノ間ニ於テ營業ヲ開始セシモノハ其開業以降其年三月マテノ金額
- 第三條 左ニ掲クルモノハ營業開始又ハ船、車、馬所有ノ際所轄郡役所ノ鑑札ヲ受ケ其營業ニ關スルモノハ之ヲ携帶シ物件ニ關スルモノハ其物件ニ付着スヘシ但賦課規則ニ於テ課稅外ト爲シタルモノ及他ノ規則ニ依リ官署ヨリ鑑札ヲ受クルノ規程アルモノハ此限ニアラス
 - 一 行商
 - 一 職工
 - 一 日雇稼
 - 一 出稼ヲナス理髮人
 - 一 遊藝師匠
 - 一 遊藝稼人
 - 一 相撲
 - 一 行司

- 一 俳優
- 一 幫間
- 一 藝妓
- 一 漁業人
- 一 乘馬
- 一 自轉車
- 一 驅馬
- 一 登簿船免狀ヲ有スル外ノ船
- 第四條 鑑札ハ賣買、貸借、讓渡、讓受ヲナスコトヲ得ス但船、車、馬ニ屬スル鑑札ニシテ其物件ヲ貸借スル場合ハ鑑札ノ貸借ト爲スノ限ニアラス
- 第五條 鑑札ハ廢業死亡又ハ船、車、馬ノ廢棄及課稅外トナリ若クハ其所有者ノ變更又ハ他郡市へ轉居ノトキハ之ヲ還納スヘシ(三三二縣二九挿入)
- 第六條 鑑札ヲ受ケタル後郡内ノ轉居其町村大字内ニ係ルモノヲ除ク又ハ改氏名代換ノ爲メ鑑札面記載ノ事項ニ變更ヲ生スルモノハ訂正ヲ請ヒ毀損若クハ亡失シタルトキハ其再渡ヲ請フヘシ
- 第七條 馬車、人力車、荷積牛馬車、荷積車ニハ所轄郡役所ノ檢印ヲ受クヘシ但官廳、公署、公立學校、公立病院、育兒院用、耕作一途用ノ車ハ此ノ限ニアラス(三三二縣二〇挿入)
- 第八條 檢印ハ廢車及課稅外ノ車トナリ若クハ他府縣又ハ名古屋市へ移轉スルトキハ其削除ヲ請フヘシ(三三二縣二九挿入)
- 第九條 營業又ハ水車、船、車、馬ノ賣買、讓渡、讓受ヲ爲スルハ各其所轄郡長ニ届出ヘシ但賣買、讓渡、讓受者其所轄同一郡内ナルトキハ届書ニ双方連署スヘシ

- 第十條 營業者及水車、船、車、馬ノ所有者所在不明ニシテ滯納處分ヲ受ケタルモノ次期ノ賦課期日ニ於テ尙其所在ノ分明セサルモノハ届出ヲ俟タス之ヲ廢業者若クハ物件廢業者トシ其鑑札及檢印アルモノハ之ヲ無効トス
- 第十一條 遊覽所演劇其他諸興行ニシテ警察官署ニ届出ルモノ、中縣稅ノ賦課ヲ受クルモノハ其届出ノ際稅金ノ領收證書ヲ示スヘシ
- 第十二條 金高ノ標準ニ依リ年稅ノ賦課ヲ受クヘキ營業ハ營業者ニ關スル帳簿ヲ製シ課稅標準ノ類別ニ從ヒ日々其金額ヲ記載シ毎月末ニ月計及通計ヲ付記スヘシ
前項ノ帳簿ハ使用最終ノ日ヨリ滿二ヶ年間之ヲ保存スヘシ
- 第十三條 營業稅雜種稅ノ賦課ヲ受クヘキ物件並ニ耕作一途用ノ船車及ヒ營業者ノ使用スル帳簿書類並ニ營業品ハ當該官吏ニ於テ之ヲ檢査ス(三二縣二〇縣二九挿入)
- 前項檢査ノ協合ニ於テハ檢査員ニ對シ其証票ノ開示ヲ求ムルコトヲ得
- 第十四條 左ニ掲クルモノハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 - 一 第一條一乃至四及第二條ノ届出ヲ爲サ、ルモノ
 - 二 第三條第四條第七條第十二條ニ違背シタルモノ
 - 三 届出ノ課稅要件又ハ金高ノ記帳ニ虛偽アルモノ
- 第十五條 本則第一條第二條ノ届書ハ概テ別紙第一號乃至第三號様式ニ依ルヘシ
- 第十六條 本則ニ依リ届出ルモノハ左ニ定ムル區分ニ從ヒ其所轄町村長ヲ經由スヘシ
 - 一 店舗又ハ場所ヲ定メテ營業ヲ爲スモノハ店舗又ハ場所ノ所在地
 - 二 水車漁業場ハ其所在地
 - 三 船舶ハ定繫場ノ所在地

- 四 屠畜ハ其屠殺セシムル者ノ現住地
- 五 車馬ハ其所有者ノ現住地
- 六 右ニ掲クルモノヲ除ク外ハ總テ本人ノ現住地
- 第十七條 本則ハ特ニ免稅ノ許可ヲ受ケタルモノニモ亦之ヲ適用ス

附 則

- 第十八條 本則ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
- 第十九條 明治三十一年四月一日現在ノ藝妓屋並ニ當時專業ニアラサル俳優ハ四月七日マテニ郡長ニ届出ヘシ但當時專業ニアラサル俳優ニシテ明治三十一年四月以前ニ受ケタル鑑札ハ本條ノ期日マテニ引換テ請フヘシ
- 第二十條 明治三十一年四月一日以前荷積大車ニ受ケタル檢印並ニ不課稅又ハ免稅ノ鑑札若クハ檢印ヲ受ケタル船車ハ同年四月三十日マテニ郡長ニ届出鑑札又ハ檢印ノ更正ヲ請フヘシ
- 第二十一條 明治三十一年四月一日以前郡役所ヨリ下付シタル鑑札又ハ檢印ハ本則第二十條ニ該當スルモノヲ除ク外總テ有効トス
- 第二十二條 明治三十二年四月一日現在ノ藝妓屋ハ明治三十二年三月中ニ於ケル抱藝妓ノ員數及其等級別ヲ四月七日迄ニ郡長ニ届出當時專業トセサル遊藝稼人ハ同日迄ニ鑑札ノ更正ヲ請ヒ農業用ノ檢印ヲ受ケタル車ニシテ耕作一途ニ使用セサルモノハ四月二十日迄ニ檢印ノ更正ヲ請フヘシ(三二縣二〇追加)
- 第二十三條 本則ニ依リ鑑札ヲ受ケタル船ニシテ耕作一途用ノモノハ四月二十日迄ニ其鑑札ヲ還納スヘシ(三二縣二九追加)

届 書 式

(第一號) 届

何町村何大字何番戸

何 某

屋 號

一金何程

但小賣々上金

一金何程

但御賤々上金

合計 金何程

右(開業)(兼業)(轉業)(候付)(明治何年間ノ何々金額前額ノ通相違無之依テ)御届仕候也

年 月 日

右

氏 名

郡 長 宛

一金高チ標準トシテ年稅ヲ賦課スル營業ハ此例ニ依ルヘシ

一年度内兼業ヲ開始スルモノハ從來ノ營業ヲ朱記シ合計ヲ付スルモノトス其轉業ニ係ル分ハ本項ノ如ク記載シ合計ヲ付スルヲ要ス

一運送業ノ收入金ト手數料トヲ合算スル場合ハ但書中其手數料ノ實數ヲ掲ケ之レカ十六倍ノ金額ヲ著シ別ニ收入金ヲ掲ケ之ヲ合算シタル額ヲ掲記スルモノトス

一ケ年間ノ賣上金、手數料、請負金、收穫金ヲ届出ルモノハ課稅標準金額及科目ヲ明記シ其月割平均ニ依リ算スルモノハ其實額ヲ付記スルモノトス

一縣内他郡市ヨリ轉業並ニ移住ノモノニ係ル届書ハ總テ其旨但書中ニ付記スヘシ
(第二號) 届 (三三三縣一〇縣一九様式中改正)

何町村何大字何番(戸)(地)

(營業者、所有者)

(屋號、姓名)

一(營業名、水車、船、車、馬其他何々)

但(課稅ノ要件ヲ記載スヘシ)

右(開業、開場、所有)候付御届仕候也

年 月 日

原籍何々
現住所何々

氏 名

郡 長 宛

一金高ノ標準ニ依ラサル年稅若クハ月稅ノ賦課ヲ受クルモノ又ハ漁業場ヲ開設スルモノハ此例ニ依ルヘシ

一但書ノ課稅要件ハ左ノ區別ニ從ヒ記載スルモノトス

行商、職工ハ其行商專業若クハ出稼專業ナルヲ

商店ハ其店數

藝妓屋ハ抱藝妓ノ數及其等級別

湯屋ハ等級別

理髮人ハ助手人員及其年齡

相撲、行司ハ給金額

俳優、遊藝稼人ハ專業、非專業ノ別又專業ノモノハ其給金額

遊技場ハ其遊技名及其遊技數

縣ノ財務

船ハ間敷石敷、噸數及定繫場又遊船ハ其旨明記スルヲ要ス
 車ノ中馬車ハ二正立一正立ノ別人力車ハ一人乗二人乗ノ別荷積牛馬車ハ二輪四輪ノ別荷積車ハ大車
 小車ノ別船車ニシテ耕作一途用ノ分ハ其旨明記スルヲ要ス
 水車ハ其類別個數

築漁業場ハ棚幅ノ間敷

日雇稼待合茶屋、遊船宿、芝居茶屋、遊藝師匠、遊藝稼人、幫間、藝妓、人寄席、自轉車ハ課稅標準ノ記
 載ヲ要セス但乘馬ハ其毛色ヲ明記スヘシ

一 生年月ハ年輪ヲ課稅標準トスルモノ、外ハ記載ヲ要セス

一 縣内池郡市ヨリ轉業並ニ移住ノモノニ係ル屆書ハ總テ其旨但書中ニ付記スヘシ
 (第三號) 屆 (三〇縣一〇様式中改正)

原籍何府縣何郡何町村何番戶

何町村何大字何番戶

何 某

何町村何大字(何處)(何座)ニ於テ何月何日(ヨリ何日マテ何日間)(最高木月錢金何程ト定メ)(一日中何回
 ニ打切)(演劇)(何々興業)(何々何頭屠殺)(何市)(開設)(驅馬何頭使用)候間御届仕候也

年月日

那 長 宛

右 氏 名

一 演劇、興行、市場遊覽所、屠畜、驅馬ハ此例ニ依ルヘシ但驅馬ハ其毛色ヲ付記スヘシ

訓令第十四號

明治三十一年三月三十日

郡 役 所

町 村 役 場

明治二十九年^一訓令第三號^{家屋稅營業稅雜稅取扱手續}左ノ通改正シ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

但明治二十九年^二訓令第七號^{課稅標準}認定ノ件ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

營業稅雜稅取扱手續

第一條 營業稅雜稅取扱規則第二條ニ依リ營業者ヨリ差出シタル屆書ハ町村長ニ於テ取纏メ第一號
 ノ式ニ依リ總計書ヲ付シ左ノ日限内ニ郡役所ヘ差出スヘシ

一 毎年一月二十日マテニ届出ノモノ 其年一月三十一日限
 一 毎年四月七日マテニ届出ノモノ 其年四月十五日限

第二條 營業稅雜稅ノ賦課ヲ受ケタルモノニシテ所在不分明ノモノアルトキハ町村長ハ其負擔スル
 稅額稅目並ニ氏名ヲ及其所在分明セントキハ現住所及氏名ヲ速ニ郡長ヘ報告スヘシ

第三條 營業稅雜稅取扱規則第三條ニ依リ下附スル鑑札ハ第二號乃至第四號ノ式ニ依リ同第七條ニ
 依ル檢印ハ第五號ノ式ニ依リ馬車ハ腕木ノ右方、人力車ハ掛木右方ノ外部、荷積馬車及荷積車ハ荷臺
 副木ノ後部右方ニ烙印スヘシ

第四條 (三二訓一〇削除)

第五條 營業稅雜稅取扱規則ニ依リ下付セシ鑑札及檢印ニシテ毀損亡失其他同則第十條ニ該當スル
 モノアルトキハ郡長ハ速ニ縣廳ニ報告スヘシ

前項ノ報告ニハ左ノ要件ヲ記載スルヲ要ス

- 一 所有者住所氏名
- 一 課稅物件名又ハ營業名

一 下付ノ月日及番號アルモノハ其月日及番號
 一 毀損亡失又ハ無効トナリシ事由
 其他必要ト認ムル事項

第六條 營業稅雜稅取締規則第十條ニ依リ廢業者トナシ又ハ鑑札及檢印ヲ無効ト爲シタルモノアル
 トキハ郡長ハ徵稅原簿ヨリ除去シ其旨ヲ町村長ニ通知スヘシ

第七條 縣内他郡ノ者ハ課稅物件ヲ賣却讓與シ又ハ船舶ノ定繫場ヲ變更シ及營業者轉住ノ上引續營業
 ヲ爲ス者アルトキハ郡長ハ其氏名並ニ課稅ノ要件ヲ移轉セシメ地ノ所轄郡長ヘ通知スヘシ

第八條 營業ニ關スル課稅標準金額並ニ課稅物件ノ檢査ハ郡長ニ於テ毎年度之ヲ行フヘシ
 前項ノ檢査時日及場所並ニ檢査ノ成績ハ其都度縣廳ヘ報告スヘシ

第九條 縣賦課規則第二十九條ニ依リ課稅標準ノ認定ハ郡長之ヲ行ヒ其認定ヲ爲シタル科目及賦課
 額ハ町村長ヲ經由シ之ヲ納稅者ニ通知スヘシ(三二訓二〇改正)

第十條 荷積車ノ尺積及舁船船、川船、積石五十石未満ノ海船ノ間數算出ハ左ノ方法ニ依ルヘシ
 一 荷積車ノ尺積ハ車寬^{副木ノ後ノ積山向シカラサルモノハ最廣最狹及其中間}ノ尺寸^{積山ト定ム}ノ尺寸曲ヲ相乘シタル積數
 ニ依ル

一 船ノ間數ハ舳梁ヨリ艦梁ニ至ル間數其舳梁艦梁ナキ船ハ荷物積載要部ノ間數ニ依ル

第十一條 農業用ノ檢印ヲ付シタル車ニシテ使用ノ目的ヲ變更シ營業稅雜稅取締規則第一條第一號
 ニ依リ届出タルトキ及同第二十二條ニ依リ檢印ノ更正ヲ申請スルモノアルトキハ農業用ノ檢印ヲ削
 除スヘシ(三二訓二〇追加)

(第一號)

營業稅雜稅ノ内總計書

何町村役場

商 業 何 戶
 卸 賣 何 戶
 小 賣 何 戶
 以下賦課科目別毎ニ列記スヘシ
 總 計 何 戶
 右及進達候也
 年 月 日 右
 郡 長 宛 町 村 長

(第二號)

木製 堅曲尺二寸三分
横同 一寸七分

第何號
 表 ○ 何々行商鑑札
 縣郡町村大字
 何 某
 何 某
 携帶人

裏 ○ 年號月日
 印 烙 愛知縣
 何郡役所

縣ノ財務

第何號

馬名
毛付
○ 乘馬鑑札

所有人
縣那町村大字
何 某

年號月日

烙
○
愛知縣
何那役所

騾馬ノ鑑札モ之ニ做フ但馬名ナキモノハ記載ニ及ハス又數人ノ共有ニ係ルモノハ外何名ト記載スヘシ
職工、日雇、漁業人、自轉車ノ鑑札ハ右ニ做ヒ調製スヘシ
職工ノ鑑札面ニハ其職名ヲ記載スヘシ
免税ノ許可ヲ受ケタルモノハ鑑札面番號ノ下ヘ(免税)ト朱記スヘシ

(第三號)

紙製 整面尺三寸 輪廓付
横同 二寸

(三二訓二〇備考中挿入)

第何號
第何等
遊藝稼人鑑札
藥名 何々

原籍府縣郡町村
縣那町村大字何々寄留
何 某

年號月日

愛知縣何那役所
印

理髮人他へ出稼チ 遊藝師匠、藝妓、相撲行司、俳優、帮間ノ鑑札ハ此例ニ做ヒ調製シ遊藝稼人、俳優ノ鑑札

ニハ等級ノ肩ニ專業非專業ノ別ヲ記載スヘシ
等級若シハ藝名ナキモノハ記載スルニ及ハス
免税ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二號式ノ鑑札記載例ニ同シ
總テ鑑札ノ訂正ヲ請フ者アルトキハ朱字訂正ヲ加ヘ鑑札ノ裏ニ年號月日訂正ト朱記シ主務者認印ヲ爲スヘシ

(第四號)

木製 整面尺五寸
横同 三寸

(三二訓二〇樣式中削除)

明治何年

第何號

何縣何郡

定繫場

何 港
何海何岸

烙印

船鑑札
愛知縣
何那役所

船名(船名ナキモノハ記載ニ及ハス)
何 間

何船(小廻船、遊船、
野流船ノ類)

所有者 住所 氏 名

(第五號)
車ノ檢印

(三二訓二) 樣式中及備考中削除)

愛知縣
何郡役所

堅固尺一寸五分
大車

備考

- 一 檢印ハ總テ烙印トス
- 一 大車ノ烙印ハ荷積大車ニ限リ用フルモノトス

縣令第十四號
明治三十一年四月四日

鹽種檢査手数料徵收規則左ノ通相定ム

鹽種檢査手数料徵收規則

- 第一條 鹽種檢査法ニ依テ檢査ヲ受クル鹽種製造者ハ左ノ區別ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ
- 一 原種 一 蝦區ニ付金壹厘
 - 二 製糸用種 一枚ニ付金壹錢五厘
- 第二條 鹽種檢査手数料ハ明治三十一年縣令第八號鹽種檢査手續第三條第二ノ届出ヲ爲シタルトキ納入告知書ヲ發シテ之ヲ徵收ス
- 第三條 納入告知書ヲ受ケタル鹽種製造者ハ該告知書ニ定ムル期日迄ニ現金ヲ指定ノ縣金庫ニ納付シ其領收證書ヲ受クヘシ

前項ニ依リ現金ヲ縣金庫ニ納付スルトキハ納入告知書ヲ添付スヘシ

第四條 鹽種檢査手数料ハ郵便爲替ヲ以テ納入告知書ニ指定シタル縣金庫ニ納付シ又ハ便宜ノ縣金庫ニ就キ納入告知書ニ指定シタル縣金庫ニ納金額ノ爲替納ヲ請求スルコトヲ得

第五條 郵便爲替ヲ以テ蠶種檢査手数料ヲ納付セントスルモノハ納入告知書ニ指定シタル縣金庫ニ宛テタル郵便爲替證書ニ又縣金庫ニ於テ爲替納ヲ爲サントスルモノハ便宜ノ縣金庫ニ就キ現金ヲ納付シ該金庫ヨリ交付ヲ受ケタル爲替納金額收證書ニ納入告知書ヲ添ヘ書留郵便ヲ以テ之ヲ納付告知書ニ指定シタル縣金庫ニ送付シ其領收證書ヲ受クヘシ

第五百五十五號 (訓令) 明治三十一年四月三十日 名古屋市役所

本年市部歳入豫算中市豫算編入額ハ總額ヲ四分シ其年五月八月十一月及翌年二月ノ各十日(休日ニ當ルヲ以テ納付ノ期日トス但臨時追加ニ係ルモノハ其時々之ヲ定ム) 前項ノ金額ヲ納付スルトキハ別紙様式ノ納付書ヲ添ヘ現金ヲ縣金庫ニ拂込ニ其預リ證印ヲ得テ之ヲ縣出納吏ニ差出シ其領收證書ヲ受クヘシ

第 何 號	某 年 度	名 古 屋 市
納 經 常 市 部 歳 入	市 豫 算 編 入 額	前 (後) 半 年 分
(高金何程)		
一金何程		
完 (分) 納		

縣金庫
取接人
印

縣ノ財務

書

何年何月何日拂込済

縣金庫印

右納付候也

明治何年何月何日

名古屋市長氏名印

縣出納吏印

縣金庫印

第何號某年度

名古屋市

經常市部歳入市豫算編入額

前(後)半年分

(高金何程)

一金何程

縣廳取扱主任印

完(分)納

右領收候也

明治何年何月何日

縣出納吏

官氏名印

符別

第何號某年度

名古屋市

經常市部歳入市豫算編入額

前(後)半年分

一金何程

完(分)納

明治何年何月何日受入

縣金庫取扱主任印

縣金庫印

第七十八號 (訓令)

明治三十一年五月二十八日

内務部

濶種検査員旅費支給規則左ノ通相定ム

濶種検査員旅費支給規則

第一條 濶種検査員職務ノ爲メ旅行スルトキハ縣ノ内外ニ拘ハラズ左ノ區別ニ依リ旅費ヲ支給ス

日當 一日ニ付 金七拾錢

車馬賃 一里ニ付 金拾錢

汽車賃 一哩ニ付 金貳錢(三二訓一三二改正)

第二條 水路旅行ハ總テ陸路里程ニ換算シ之ヲ支給ス

縣ノ財務

第三條 旅行實費第一條ノ支給額ニテ支辨シ難キ場合ト雖モ之ヲ増給セス
 第四條 旅行里程ハ検査員現住地ヨリ起算シ順路ニ依リ之ヲ支給ス但検査所ヨリ直ニ旅行スルトキハ
 検査所々在地ヨリ起算ス
 第五條 検査所ニ於テ執務中及検査所々在地ノ巡回ハ旅費ヲ支給セス
 検査員現住地ヲ出發シ其現住地ノミ巡回スルトキ亦前項ニ同シ
 第六條 支給方法ニシテ本則ニ定ムルモノ、外ハ縣經濟ノ支辨ニ關スル旅費支給規則ニ依ル

第百八十五號 (訓令) 明治三十一年六月三日 内務部

熱田灣築港工事ニ從事スル縣吏員給料及旅費給與金支給方法左ノ通相定ム

縣吏員給料及旅費給與金支給方法

第一條 熱田灣築港工事ノ爲メ設置スル縣吏員ノ俸給ハ第一號表第二號表ニ依リ支給ス
 第二條 前條縣吏員ノ旅費ハ築港區域外ノ旅費ニ限リ縣經濟ニ係ル旅費支給規則ニ依リ其俸給ノ種別
 ニ從ヒ各所定ノ額ヲ支給ス
 第三條 在職中死亡シタル者ニシテ勤職一年未滿ノモノニハ當月分俸給ノ外尙俸給額一ヶ月分ヲ其滿
 一年以上ノモノニハ二ヶ月分ヲ其遺族ニ給與ス
 公務ノ爲メ死亡シタル者ニハ前項給與金ノ外尙俸給額三ヶ月分ヲ其遺族ニ給與ス
 第四條 在職滿一年以上ノ者退職シタルトキハ當月分俸給ノ外尙俸給月額四分ノ一ヲ在職年數ノ一ヶ
 年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ給與ス但自己ノ便宜ニ由リ退職シタル者又ハ懲戒處分等ニ由リ免職
 ノ者ニハ支給セス
 公務ノ爲メ傷病若シハ疾病ニ罹リ職務ニ堪ヘサル爲メ退職ヲ命シタル者ニハ前項給與金ノ外在職年

數ニ拘ラス尙俸給一ヶ月分ヲ給與ス

第五條 此方法ニ定ムルモノ、外支給及計算ノ法ハ年俸支給ノモノハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ月俸
 支給ノモノハ縣經濟ニ係ル傭員俸給支給ノ例ニ依ル

第一號

職名	年	俸	級
工 師	一 等	千四百圓	一 等
	二 等	千貳百圓	二 等
	三 等	千 圓	三 等
	四 等	九百圓	四 等
	五 等	八百圓	五 等
	六 等	七百圓	六 等
	七 等	六百圓	七 等

第二號

職名	月	俸	級
工 手	一 等	五拾圓	一 等
	二 等	四拾五圓	二 等
	三 等	四拾圓	三 等
	四 等	參拾五圓	四 等
	五 等	參拾圓	五 等
	六 等	貳拾五圓	六 等
	七 等	貳拾圓	七 等
	八 等	拾八圓	八 等
	九 等	拾五圓	九 等
	十 等	拾貳圓	十 等
	十一 等	拾壹圓	十一 等
	十二 等	拾圓	十二 等

第百八十六號 (訓令) 明治三十一年六月三日

内務部

土木工事ニ從事スル縣吏員給料及旅費給與金支給方法左ノ通改正ス

縣吏員給料及旅費給與金支給方法

第一條 土木工事ノ爲メ設置スル縣吏員ノ俸給ハ第一號表第二號表ニ依リ支給ス
 第二條 縣吏員ノ管内旅費ハ月手當トシテ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス但病氣其他ノ私事ノ故障ニ依

縣ノ務財

リ職務ニ從事セサル間ハ日割計算ヲ以テ其額ヲ減ス

一工師 金參拾圓ヨリ參拾九圓マテ
一工手 金拾貳圓ヨリ貳拾壹圓マテ

管外ノ旅費ハ縣經濟ニ係ル旅費支給規則ニ依リ其俸給ノ種別ニ從ヒ各所定ノ額ヲ支給ス此場合ニ於テハ前項但書ニ準シ月手當額ヲ減ス

第三條 在職中死亡シタル者ニシテ勤続一年未滿ノモノニハ當月分俸給ノ外尙俸給額一ヶ月分ヲ其滿一年以上ノモノニハ二ヶ月分ヲ其遺族ニ給與ス

公務ノ爲メ死亡シタル者ニハ前項給與金ノ外尙俸給額三ヶ月分ヲ其遺族ニ給與ス

第四條 在職滿一年以上ノ者退職シタルトキハ當月分俸給ノ外尙俸給月額四分ノ一ヲ在職年數ノ一ヶ年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ給與ス但自己ノ便宜ニ由リ退職シタル者又ハ懲戒處分等ニ由リ免職ノ者ニハ支給セズ

公務ノ爲メ傷疾若クハ疾病ニ罹リ職務ニ堪ヘサル爲メ退職ヲ命シタルモノニハ前項給與金ノ外在職年數ニ拘ラス尙俸給二ヶ月分ヲ給與ス

第五條 此方法ニ定ムルモノ、外支給及計算ノ方法ハ年俸支給ノモノハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ月俸支給ノモノハ縣經濟ニ係ル職員俸給支給ノ例ニ依リ

(第一號)

(三三訓一本表改正)

職名	年	俸	等
工師	一	等	二
	二	等	三
	三	等	四
	四	等	五
	五	等	六
	六	等	七
千二百圓	千	圓	九百圓
		圓	八百圓
		圓	七百圓
		圓	六百圓

(第二號)

職名	月	俸	等
工手	一	等	二
	二	等	三
	三	等	四
	四	等	五
	五	等	六
	六	等	七
	七	等	八
	八	等	九
	九	等	十
四拾圓	參拾五圓	參拾圓	貳拾五圓
		貳拾圓	拾八圓
		拾五圓	拾貳圓
		拾圓	拾圓

第二百五十七號 (訓令)

明治三十一年九月三日

内務部

熱田灣築港費積立金方法左ノ通相定ム

熱田灣築港費積立金方法

第一條 熱田灣築港費ノ支辨ニ充ツヘキ現金ハ支拂ノ狀況ニ應シ其全部若クハ淺分ヲ相當ノ利子ヲ徴シテ確實ナル銀行ニ預ケ入ルモノトス

第二條 前條ニ依リ生シタル益金ノ處分ハ縣會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ムルモノトス

第三條 積立金ノ出納精算ハ毎年度通常縣會ニ報告スルモノトス

縣令第一號

明治三十二年一月九日

通常郡部會ノ議決ヲ經テ明治三十二年度縣稅賦課規則左ノ通相定ム

明治三十二年度縣稅賦課規則

第一章 總則

第一條 縣稅ハ總テ之ヲ前納トス但屠畜稅及第十二條ニ該當スルモノハ此限ニアラス

第二條 賦課期日ヲ定メ其現在ニ賦課シタル縣稅ハ納稅義務ノ消滅變更又ハ移轉シタル場合ト雖其現

在ニ賦課セラレタル義務者ニ於テ既定ノ稅額ヲ納ムルモノトス
 第三條 臨時追徴ヲ要スル縣稅ノ賦課額及賦課期日ハ其時々之ヲ定ム
 第四條 稅金ノ通脫者アルコトヲ發見シタルトキハ通脫中ニ係ル稅金ヲ一時ニ賦課ス但其稅額ハ通脫
 シタル年度ノ賦課額ニ由ル

第二章 地租割

第五條 地租割ハ豫算ニ定ムル稅率ヲ二分シ六月十五日十月一日現在ノ地租額ニ賦課ス(三三二縣二七
 改正)

第六條 賦課期日後有租地トナリタルモノ又ハ地租ノ増加スルモノハ其部分ニ限り次期ノ前日迄課稅
 外トス

第三章 營業稅、雜稅

第七條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

科 目	課稅標準	稅率、稅額
卸 賣 業	賣 上 金 年 稅	賣上金五拾圓マテ稅金拾八錢以上百圓マテ稅金拾六錢以上五拾圓マテ増ス每ニ稅金拾貳錢ヲ増ス
小 賣 業	賣 上 金 年 稅	賣上金五拾圓マテ稅金貳拾四錢以上百圓マテ稅金四拾八錢以上五拾圓マテ増ス每ニ稅金拾八錢ヲ増ス
質 業	貸 附 金 年 稅	貸附金五拾圓マテ稅金貳拾四錢以上百圓マテ稅金四拾八錢以上五拾圓マテ増ス每ニ稅金拾八錢ヲ増ス
宿 屋 業	收 入 金 年 稅	收入金五拾圓マテ稅金貳拾五錢以上百圓マテ稅金五拾錢以上五拾圓マテ増ス每ニ稅金貳拾錢ヲ増ス

科 目	課稅標準	稅率、稅額
運 送 業	收 入 金 年 稅	收入金五拾圓マテ稅金貳拾四錢以上百圓マテ稅金四拾八錢以上五拾圓マテ増ス每ニ稅金拾八錢ヲ増ス但收入金中手數料ニ關スル分ハ其金額ヲ十六倍トシテ收入金ニ合算ス
貨 附 業	利 金、損 料 年 稅	利金、損料金壹圓マテ稅金四拾四錢以上六圓貳拾五錢マテ稅金四拾八錢以上六圓貳拾五錢マテ増ス每ニ稅金壹拾六錢ヲ増ス
兩 換 業	手 數 料 年 稅	手數料金壹圓マテ稅金貳拾四錢以上六圓貳拾五錢マテ稅金四拾八錢以上六圓貳拾五錢マテ増ス每ニ稅金壹拾六錢ヲ増ス
行 商	一 人ニ付年稅	金 貳 拾 五 錢
商 店	一 店ニ付月稅	金 拾 錢
藝 妓 屋	抱 一 等 藝 妓 一 人ニ付	金 壹 圓
	同 二 等 藝 妓 一 人ニ付	金 六 拾 錢
	同 三 等 藝 妓 一 人ニ付	金 參 拾 錢
工 業	課稅標準	稅率、稅額
製 造 業	器 物 器 械ノ製 作 若 若クハ製 作ノ一 部ヲ助 成スルモノ及 器 物 器 械ノ修 理、洗 滌、成 縫ヲ爲 スモノ並ニ 表 具 師	收入金五拾圓マテ稅金貳拾四錢以上百圓マテ稅金四拾八錢以上五拾圓マテ増ス每ニ稅金拾八錢ヲ増ス
印 刷 業		收入金五拾圓マテ稅金貳拾六錢以上百圓マテ稅金五拾錢以上五拾圓マテ増ス每ニ稅金貳拾錢ヲ増ス

寫真業	收入金年税	收入金五拾圓マテ税金六拾六錢以上百圓マテ税金五拾貳錢以上五拾圓マテ増ス毎ニ税金貳拾錢ヲ増ス
請負業	請負金年税	請負金五拾圓マテ税金四拾四錢以上百圓マテ税金四拾八錢以上五拾圓マテ増ス毎ニ税金拾八錢ヲ増ス
職工	一人ニ付年税	金 五 拾 錢
日備稼	一人ニ付年税	金 貳 拾 錢
第八條 雜種税へ左ノ課税標準及税率ニ依リ之ヲ賦課ス		
雜種税	課税標準	税率、税額
料理屋仕出料	收入金	收入金五拾圓マテ税金六拾錢以上百圓マテ税金壹圓貳拾錢以上五拾圓マテ増ス毎ニ税金六拾錢ヲ増ス
飲食店	收入金	收入金五拾圓マテ税金六拾錢以上百圓マテ税金壹圓貳拾錢以上五拾圓マテ増ス毎ニ税金六拾錢ヲ増ス
待合茶屋	年税	金 四 圓
遊船宿	年税	金 參 圓
芝居茶屋	年税	金 參 圓
湯屋	年税	金 壹 圓 五 拾 錢
	一等 一月内男女兩湯ニシテ別ニ休息所ヲ設ケルモノ	金 參 圓
	二等 一月内男女兩湯アルモノ又ハ一湯ニシテ別ニ休息所ヲ設ケルモノ	金 壹 圓 五 拾 錢
	三等 一戸内一湯アルモノ	金 七 拾 五 錢

理髮	人女髮結	月税	一等 年十五年以上ノ助手三人以上ヲ設ケルモノ	金 四 拾 五 錢
遊藝師匠	遊藝稼人	月税	二等 同上助手二人迄ヲ置クモノ	金 拾 五 錢
		月税	三等 同上助手ヲ置カサルモノ	金 六 拾 錢
生活ノ爲メ常時專業トスルモノ		月税	一等 男子年齢十五年以上	金 五 拾 錢
		日税	二等 同上十五年以下及女子	金 貳 拾 五 錢
常時專業ニアラサルモノ		日税	一等 十日間給金參圓以上	金 參 拾 錢
		月税	二等 十日間給金參圓未満	金 五 拾 錢
併 優		月税	一等 十二日間給金拾貳圓以上	金 貳 圓
		月税	二等 同上	金 壹 圓 五 拾 錢
		月税	三等 同上	金 七 拾 錢
常時專業ニアラサルモノ		日税		金 壹 圓
常時專業ニアラサルモノ		日税		金 壹 圓 五 拾 錢

藝	妓	月稅	一等 年 齡 十 六 年 以 上 二等 同 上 十 四 年 以 上 十 六 年 未 滿 三等 同 上 十 四 年 未 滿	金 五 圓 金 參 圓 五 拾 錢 金 貳 圓
市	場	諸 寶 主 ア ッ テ 時 日 ナ 定 メ 諸 物 ナ 持 持 衆 人 ナ 集 メ テ 節 寶 或 ハ 販 賣 ス ル 場 所	日 稅	開 場 中 一 日 金 壹 圓
演	劇	開 場 一 日 中 一 回 若 ク ハ 二 回 ニ 打 切 リ 興 行 ス ル モ ノ	一 回 每 ニ	木 戶 錢 最 高 七 人 分 場 代 最 高 七 枚 分 但 場 代 ノ 一 枚 ハ 三 人 詰 マ テ ト シ 一 枚 四 人 詰 以 上 ノ 構 造 ナ レ バ 之 ナ 二 枚 ニ 又 一 人 毎 二 受 ケ ル ト キ ハ 三 人 分 ナ テ 一 枚 下 計 算 ス
興	行	日 稅	一 開 場 一 日 中 一 回 若 一 ク ハ 二 回 ニ 打 切 リ 一 回 每 ニ 興 行 ス ル モ ノ	木 戶 錢 最 高 二 十 五 人 分 最 高 場 代 二 十 五 枚 分 但 場 代 ノ 計 算 ハ 前 同 上
遊	遊 覽	所 花 弁、草 圖、生 人 形、視 目 鏡、押 繪、バ ノ ラ マ ノ 類	日 稅	開 場 中 一 日 金 拾 五 錢
遊	技 寄	場 席	一 遊 技 ニ 付	金 壹 圓 貳 拾 錢 金 壹 圓 五 拾 錢
船	遊 船	解 漁 船 川 船 及 五 十 石 未 滿 海 船	年 稅	三 間 迄 ハ 稅 金 四 拾 錢、以 上 一 間 マ テ ナ 加 フ ル 毎 ニ 稅 金 貳 拾 錢 ナ マ テ ナ 加 フ ル 每 ニ 稅 金 參 拾 五 錢 ナ 増 ス 三 間 迄 ハ 稅 金 七 拾 錢、以 上 一 間 マ テ ナ 加 フ ル 每 ニ 稅 金 參 拾 五 錢 ナ 増 ス

車	馬	二 正 立 以 上 一 正 立	年 稅	金 拾 五 圓
人	力 車	一 人 乘 二 人 乘	年 稅	金 壹 圓 貳 拾 錢 金 壹 圓 八 拾 錢
荷	積 牛 馬 車	二 輪 車 四 輪 車	年 稅	金 五 圓 金 參 圓
荷	積 大 車	尺 積 十 四 坪 以 上	年 稅	金 壹 圓 貳 拾 錢
荷	積 小 車	尺 積 十 四 坪 未 滿	年 稅	金 六 拾 錢
水	挽 車			
石	粉 木 葉 春 臼	一 個 ニ 付	年 稅	金 五 拾 錢
春	臼 (石 粉 木 葉 春 臼 ナ 除 ク 外)	一 個 ニ 付	年 稅	金 六 拾 錢
紡	績 器 械 紡 錘	一 個 ニ 付	年 稅	金 拾 五 錢
綿	繰 綿 打 器 械	二 十 個 ニ 付	年 稅	金 壹 錢
製	糸 器 械	一 臺 ニ 付	年 稅	金 五 拾 錢
洋	式 紡 績 器 械 紡 錘	一 人 採 ニ 付	年 稅	金 貳 拾 錢
		十 個 ニ 付	年 稅	金 拾 錢

同上棉打器械カーシング	一臺ニ付	年	稅	金壹圓
同上スカッチ	一臺ニ付	年	稅	金參圓
乘馬 <small>乘馬ノ目的ニアラスンテ 鋼製スルモノト雖モ乘鞍 ヲ付キ兼用スルモノ又ハ 鞍馬ニ用ユルモノトモ</small>	一頭ニ付	年	稅	金貳圓
屠畜	一頭ニ付			金壹圓
羊	一頭ニ付			金五拾錢
牛	一頭ニ付			金壹拾五錢
漁業人	一人ニ付	年	稅	收穫金高百分ノ五
漁業場	一ヶ所ニ付	年	稅	
築漁業場	一ヶ所ニ付	年	稅	
棚幅三間以上	一季一ヶ所 <small>(八月二十日ヨリ 十一月三十日まで)</small>			金拾圓
同上三間未滿一間以上	同上			金六圓
同上一間未滿	同上			金壹圓五拾錢
自轉車	一輛ニ付	年	稅	金七拾錢
馬	一頭ニ付	日	稅	金壹圓
西洋形蒸氣船	一噸ニ付	年	稅	金拾八錢
同 風帆船	一噸ニ付	年	稅	金拾貳錢
日本形船積石五拾石以上	一石ニ付	年	稅	金貳錢五厘

第九條 營業稅雜種稅中年稅ニ係ルモノハ之ヲ二分シ四月一日十月一日月稅ニ係ルモノハ其月一日ノ

現在營業者又ハ物件所有者ニ賦課シ日稅及築漁業場稅ハ其業開始又ハ物件所有者ノ時屠畜稅ハ其時々其營業者又ハ物件所有者ニ賦課ス

第十條 營業ヲ開始シタル者及物件ノ所有ニ依リ新ニ納稅義務ヲ生シタル者ハ其翌月ヨリ月割ヲ以テ賦課ス

第十一條 廢業若クハ物件ヲ廢棄シタル翌月ニ於テ同科目ノ營業ヲ開始若クハ同種類ノ物件ヲ所有スルモノハ之ヲ繼續ノ義務者トシテ其月ヨリ賦課ス

第十二條 月稅ヲ賦課スルモノニシテ開業若クハ物件所有ノ月ニ於テ廢業若クハ物件ヲ廢棄シタルモノハ營業若クハ物件所有ノ日數ニ應ジ日割ヲ以テ賦課ス

第十三條 薩妓屋稅理髮人稅ハ前月中ニ於ケル抱藝妓及助手人員ノ最多數ノトキニ依リ賦課ス但兩業ノ月ニ於テ廢業スルモノハ其月ニ於ケル人員ノ最多數ニ依ル

第十四條 金高ヲ標準トシテ年稅ヲ賦課スルモノニシテ廢業後一ヶ年ヲ經サル内ニ再ヒ同科目ノ營業ヲナスモノハ廢業當時ノ稅額ニ依リ賦課ス

第十五條 他府縣又ハ名古屋市ヨリ移住ノ者並ニ轉業ノ者ハ共ニ第十條ノ例ニ依リ賦課ス

第十六條 營業ヲ讓受ケタルモノハ前營業者ノ課稅額ニ依リ次ノ賦課期日ニ於テ賦課ス

第十七條 營業稅法ニ依ル營業者ニシテ課稅標準ノ變更ニ依リ賦稅ノ賦課ヲ受クヘキ場合ニ至リタルモノハ左ノ區別ニ依リ之ヲ賦課ス

- 一 明治三十二年一月ニ於テ其義務ノ生シタルモノハ其前年中ノ賣上等ノ金額
- 二 明治三十三年一月ニ於テ其義務ノ生シタルモノハ其前年中ノ賣上等ノ金額ニ對スル課稅額ノ四分ノ一
- 三 前各號ノ外ハ第十八條ヲ準用ス

第十八條 金高ニ依リ年税ヲ賦課スル標準ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

- 一 明治三十一年中繼續營業ノモノハ其賣上金等ノ金額
- 二 明治三十一年中新ニ營業ヲ開始スルモノハ其開業後平均一ヶ月ノ賣上金等ヲ十二倍シタル額
- 三 明治三十二年一月ヨリ三月迄ノ間ニ於テ營業ヲ開始スルモノ亦前號ニ同シ
- 四 明治三十二年四月ヨリ明治三十三年三月迄ノ間ニ於テ新ニ營業ヲ開始スルモノハ其年度間ニ於ケル見積金額
- 五 繼續營業者ニシテ賣上金等ナキモノハ既往最近年間ノ金額又ハ營業開始後賣上金等ナキモノハ當初届出ノ額

第十九條 日税ハ届出ノ日數ニ依リ其日數ヲ増加シタルトキハ尙之ニ賦課ス

預劇又ハ興行ニシテ當初届出ノ後木戸錢又ハ協代ヲ増加シタルトキハ亦前項ニ同シ

第二十條 課税ノ標準タルヘキ金額ハ營業科目内ニ於ケル種類ノ開廢アルモノ之ヲ増減セス

第二十一條 左ニ掲クルモノハ各別ニ賦課ス但第二十二條ニ掲クルモノハ此限ニアラス

- 一 商業、工業、雜種業交互兼業スルモノ
- 二 店舗ノ異ナルモノ
- 三 一營業場内二人以上ノ營業者ニシテ資産及損益ヲ異ニスルモノ
- 第二十二條 左ニ掲クルモノハ税額ノ多キ一方ニ賦課ス但金額ヲ標準トシテ賦課スルモノハ其賣上金等ヲ通算シタル額ニ依ル
- 一 月税ヲ賦課スル遊藝師匠、遊藝稼人、俳優、新聞、藝妓ヲ交互兼業スルモノ
- 二 卸賣業、小賣業、宿屋業、運送業、製造業、印刷業、寫真業、料理屋、飲食店ヲ交互兼業スルモノ
- 三 貸付業、兩換業ヲ交互兼業スルモノ

第二十三條 店舗ノ設ケアルモノニシテ行商ヲ爲ス場合ニ於テハ賣上金ヲ合算シ別ニ行商税ヲ課セス

第二十四條 製造業ニシテ職工ヲ兼タル場合ニ於テハ工錢ヲ收入金ニ合算シ別ニ職工税ヲ課セス但其

金高百圓ヲテハ職工税ノミヲ賦課ス

第二十五條 製造業、印刷業、寫真業ニシテ自家製作ノ物品ヲ販賣スルモノハ別ニ卸賣又ハ小賣税ヲ課セス但他ニ店舗ヲ設ケルモノハ此限ニアラス

第二十六條 席貸茶屋ニテ飲食物ヲ賣ルモノハ商業税又ハ料理屋税ヲ賦課ス

第二十七條 縣内ニ工場若クハ製造所ヲ置キ其製品ヲ他府縣ノ店舗ニ於テ販賣スルモノハ其製造品ノ

價格ヲ以テ收入金トシ賦課ス

第二十八條 何等ノ名稱ヲ以テスルモ營利ノ業ニ屬シ課税科目ノ業体ニ類似スルモノハ事實適當ノ科

目ニ依リ賦課ス

第二十九條 金高ヲ標準トシテ年税ヲ賦課スル營業者ニシテ課税標準トナルヘキ金高ヲ届出サルモノ

又ハ金高調査ニ際シ營業ニ關スル帳簿若クハ證據ヲ示サ、ルモノ又ハ之ヲ示スモ不實ト認ムルモノ

ハ其營業相當ト認ムル金額ニ賦課ス

第三十條 左ニ掲クルモノハ次期ノ前日迄課税外トス

- 一 湯屋ノ等級ヲ變更シタルモノ
 - 二 在來ノ船車ヲ變更シ又ハ使用ノ目的ヲ變更シタルモノ
 - 三 水車ノ課税物件ヲ増加シタルモノ
 - 四 職工、日傭稼、漁業人ニシテ年齢十五年ニ滿ルモノ
- 第三十一條 左ニ掲クルモノハ課税外トス
- 一 營業税法第十一條第一號及第二號ニ該當スルモノ

二 店舗ヲ設ケス又ハ製作ヲ加ヘスシテ自家收得ノ繭其他農産物、菓實、草木ノ類及漁業人ニシテ自獲ノ禽獸魚介類ヲ賣ルモノ

三 營業ノ目的ニアラスシテ飼養シタル家禽、家畜又ハ卵子、乳汁ヲ賣ルモノ

四 一定ノ工場又ハ一定ノ製造ニ於テ其業ニ備役セラル、職工

五 糊行商及職工日傭稼中年齡十五年ニ滿タサルモノ並ニ廢物直シ職煙管直シ職

六 路傍又ハ門戸ニ立テ他人ノ惹惹ニ依リ金品ヲ受ケ技藝ヲ演スルモノ

七 漁業場稅ヲ納ムルモノニシテ其漁業場ニ於テスル漁業人稅

八 官廳、公署、公立學校、公立病院、育兒院用ノ船車、自轉車、陸軍用ノ乘馬

九 倉庫船、橋梁代用船、本船ニ揚ケ置ク傳馬船（ハツター）ヲノ類ニ救助豫備船水車用浮船

十 耕作一途用ノ船車（三三縣二七改正）

十一 遊藝師匠、遊藝稼人ニシテ官目並ニ自由ヲ辨スルコト能ハサル不具者

十二 漁業人ニシテ年齡六十年以上十五年ニ滿タサルモノ及女子

十三 覗目鏡又ハ吹矢ノ類ニシテ輾轉擔荷シ場所ヲ定メサルモノ

第四章 戶數割

第三十二條 戶數割ヲ賦課スル戶數ハ左ノ一ニ該當スルモノヲ以テ一戶トス

一 本籍寄留戶主非戶主又ハ住家ノ何タルヲ問ハス凡テ一家ノ生計ヲナスモノ

二 一家内ノ同居ニシテ生計ヲ異ニスルモノ

第三十三條 戶數割ハ豫算ニ定ムル稅率ヲ二分シ六月十五日十月一日現住者ニ賦課ス（三三縣二七改正）

町村會ノ議決ニ依リ前項賦課ニ關スル各戶ノ等差ヲ設クルコトヲ得

第三十四條 縣内ノモノニシテ賦課期日後新ニ戶ヲ構ヘタルモノハ次期ノ前日迄課稅外トス

第三十五條 左ニ掲クルモノハ課稅外トス

- 一 學校生徒ニシテ修業ノ爲メ寄寓スル者
- 二 職工其他被傭人ニシテ其傭人ノ家ニ寄寓シ別ニ一戶ヲ構ヘサル者
- 三 番頭手代其他業務取扱人ニシテ營業者ノ特ニ設クル店舗及銀行會社内ニ寄寓シ別ニ一戶ヲ構ヘサル者
- 四 國費又ハ縣費ヲ以テ救恤セラルル者
- 五 藝妓ニシテ藝妓屋ニ娼妓ニシテ其樓主ノ家ニ寄寓スル者

第五章 營業稅附加稅

第三十六條 營業稅附加稅ハ營業稅壹圓ニ付金貳拾錢トシ左ノ區別ニ依リ五月一日三月十五日現在ノ營業稅納稅者ニ賦課ス

- 一 五月一日ニ在テハ明治三十二年ニ屬スル營業稅年額ノ十二分ノ九
 - 二 三月十五日ニ在テハ明治三十三年ニ屬スル營業稅年額ノ十二分ノ三
- 第三十七條 營業稅法第三十條ニ該當スルモノハ其稅ノ確定シタル後賦課ス

訓令第四號

明治三十二年二月十三日

郡 役 所
町 村 役 場

本年縣令第一號縣稅賦課規則第三十一條ノ第十ニ掲クル耕作一途用車トハ農家ニ於テ自家ト其耕地間トニ農具、種子、肥料、收穫物ヲ運搬スル車ニ限リタル儀ニ付有稅車ノ如キ使用ヲ爲シ犯則者ヲ生セザル様注意取扱フヘシ

訓令第二十六號

明治三十二年四月十七日

郡役所
町村役場

本年縣令第一號縣稅賦課規則第三十一條ノ第十ニ掲クル耕作一途用船トハ農家ニ於テ船ニアラサレハ通スルコト能ハサル周圍渚水ノ耕地耕耘ノ爲若ハ自家ト其耕地間トニ農具種子肥料收穫物運搬ノ爲ニ用ユル船ニ限リタル儀ニ付有稅船ノ如キ使用ヲ爲シ犯則者ヲ生セサル様注意取扱フヘシ

訓令第五號

明治三十二年二月十三日

內務部
警察部
監獄署
郡役所
警察署
警察分署
監獄支署
縣立學校
農事試驗場
水產試驗場
縣立病院
博物館
測候所

驅撒院
牛痘種繼所

縣經濟ノ支辨ニ屬スル賄料支給規程左ノ通相定メ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
但明治二十四年^四訓令第百十號同訓令第百十七號同訓令第百十九號同無號達、明治二十八年^三第百二十四號訓令明治三十一年^三訓令第百七號手當及食料支給規程第七條乃至第九條ノ賄料支給ニ關スル規程ハ此規程實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

賄料支給規程

- 第一條 縣經濟ノ支辨ニ屬スル賄料ハ左ノ區別ニ依リ第三條ニ定ムル金額ヲ支給ス
 - 一 臨時徹夜^{夜中八時以上}ノ實務ニ服シタル者ニハ賄料三度分
 - 二 午後六時前ヨリ翌日午前六時ヲ過クルノ間宿直ノ勤務ニ服シタル者ニハ賄料二度分
 - 三 晝夜交代ノ職務ニ從事スル者ニシテ夜間勤務ニ服シタル者ニハ賄料一度分
 - 四 宿直員ニシテ本條第一號ノ實務ニ服スルモ徹夜賄料ヲ支給セス又巡查ニシテ同條第二號第三號ノ事務ニ服スルモ之カ賄料ヲ給セサルモノトス
- 第二條 賄料ハ前月二十五日ヨリ^{毎年四月ニ限リ}其月二十四日ニ至ル分ヲ每月末日迄ニ支給ス但解職、死亡、轉勤ノ場合ハ其時々及毎年三月廿五日ヨリ同三十一日ニ至ル分ハ四月ニ至リ支給スルモノトス
- 第三條 委任及委任待遇ノ者、列任及列任待遇ノ者其他事務員、女監取締、押丁、授業手、雇員ニ支給スル賄料ハ一度ニ付參錢五厘トシ水夫、工天、小使、給仕其他役夫、傭人ニ支給スル賄料ハ一度ニ付貳錢五厘トス

訓令第六號

明治三十二年二月十三日

內務部

警 察 部
 監 獄 署
 郡 役 所
 警 察 署
 警 察 分 署
 監 獄 支 署
 縣 立 學 校
 農 事 試 驗 場
 水 產 試 驗 場
 縣 立 病 院
 博 物 館
 測 候 所
 驅 使 院
 牛 痘 種 繼 所

明治三十年四月十一號訓令第七十九號縣經濟ノ支辨ニ關スル旅費支給規則左ノ通改正シ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
 但明治三十年一月一號郡書記管外旅費支給規則ハ此規則實施ノ日ヨリ廢止ス

縣經濟ノ支辨ニ屬スル旅費支給規則

第一條 縣内ノ旅費ハ分テ四級トシ左ノ區別ニ依リ別表ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス
 一級旅費ヲ支給スル者
 委任及委任待遇ノ者

地方森林會議員
 地方衛生會員

農商工諮問會員

小學校教科用圖書審查委員
 小學校教員檢定委員

俸給月額百圓以上ノ者

二級旅費ヲ支給スル者

判任及判任待遇ノ者巡査看守ヲ除ク
 教誨師

臨時雇醫師

獸 醫

俸給月額百圓未滿十二圓以上及日給四十錢以上ノ者

三級旅費ヲ支給スル者

巡査、看守

授業手

鑑定人醫師ヲ除ク

俸給月額十二圓未滿及日給四十錢未滿ノ者

四級旅費ヲ支給スル者

押丁、探偵雇人、守門、小使、給仕、看護人、取者、馬丁、其他各種ノ役夫、傭人

第二條 縣外ノ旅費ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 前條ニ依リ一級旅費ヲ受クル者ニ在テハ汽車賃ハ一哩ニ付四錢其他ハ明治三十年勅令第三百三十三號内國旅費規則第三等旅費ノ定額(三二訓二三插入)
- 二 同二級旅費ヲ受クル者ニ在テハ汽車賃ハ一哩ニ付三錢其他ハ明治三十年勅令第三百三十三號内國旅費規則第四等旅費ノ定額(三二訓二三插入)
- 三 同三級旅費ヲ受クル者ニ在テハ汽車賃ハ一哩ニ付金貳錢其ノ他ハ明治三十年内務省令第二十七號警察官吏其他内國旅費概則甲號表ノ定額但巡查、看守ノ宿泊料ハ六十錢トス(三二訓三一插入)
- 四 同四級旅費ヲ受クル者ニ在テハ汽車賃ハ一哩ニ付金壹錢五厘其ノ他ハ明治三十年内務省令第二十七號警察官吏其他内國旅費概則乙號表ノ定額(ノ)
- 第三條 第一條ニ掲クル以外ノ者ヲ招聘シタル場合ハ官等アル者ハ其官等相當ノ額ヲ支給シ官等ナキ者ハ其時々支給額ヲ定ム
- 第四條 旅費支給ニ關シ本縣ニ於テ別ニ規程ヲ定ムルモノハ各其規程ニ依ル
- 第五條 本則ニ定ムルモノ、外ハ明治三十年勅令第三百三十三號内國旅費規則又ハ明治三十年内務省令第二十七號警察官吏其他内國旅費概則ニ依ル

別表

支給額等級	汽車賃ニ付	船賃ニ付	車馬賃ニ付	宿泊料ニ付	日當ニ付	食卓料ニ付
一級	四錢	五錢	八錢	壹圓廿錢	八拾錢	壹圓廿錢
二級	三錢	四錢	拾貳錢	六拾錢	四拾錢	九拾錢
三級	貳錢	參錢	拾錢	四拾錢	廿五錢	五拾錢

四級	壹錢五厘	貳錢	陸路雜費六錢	參拾錢	參拾錢
----	------	----	--------	-----	-----

第四十二號 (訓令)

明治三十二年二月二十七日

警察署
警察分署

明治三十二年度巡查給與品中代料渡ニ係ル支給額左ノ通り定ム

- 一下襟 一個六錢
- 一手套 一個拾貳錢
- 一冬肌着 一組金六拾錢
- 一夏肌着 一組金四拾六錢
- 一靴下 一足金五錢
- 一長靴 一足金貳圓七拾五錢
- 一短靴 一足金壹圓七拾五錢

訓令第十五號

明治三十二年三月十三日

郡役所

明治三十年^{十二}月 訓令第八十五號土木營繕工事ニ從事スル郡書記及郡役所雇旅費支給規程左ノ通改正シ
明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

土木營繕工事ニ從事スル郡書記及郡役所雇旅費支給規程

第一條 郡書記及郡役所雇ニシテ土木營繕工事設計及現場巡視ノ爲メ郡ノ内外ヲ旅行スルモノハ一切ノ旅費トシテ左ノ日額ヲ支給ス

郡 警 記

金七拾錢
金六拾錢

- 第二條 本務ノ何タルヲ問ハス土木營繕工事ノ用務ヲ兼旅行スル場合ト雖モ日額ノミヲ支給ス
- 第三條 郡役所々在地ノ出張巡回ハ日額ヲ支給セス
- 第四條 非常災害ノ場合ニ於テ特ニ急行ヲ命シタルトキハ本規程ヲ適用セス

第七十三號 (訓令) 明治三十二年三月十七日

内務部
警察部
警察署
同分署

明治二十七年六月訓令第百六十五號巡查旅費支給規程左ノ通改正來四月一日ヨリ施行ス

巡查旅費支給規程

- 第一條 警察署分署各管轄内(各古市所在 各署ハ同市内)ノ巡回及出張ハ區内旅費同管轄外ニ涉ルハ未決囚及瘋癪人護送ハ區外護送旅費ヲ支給ス其額ハ別表ニ據ル
- 第二條 區内宿泊料ハ用務ノ爲メ特ニ宿泊シタルトキ同日當ハ往返六里以上ノ出張ニシテ日歸ノトキ同派車賃及人力車賃ハ實費拂ノ認許ヲ受ケタルトキ同船賃ハ地勢上船便ニ依ラサレハ至リ難キ場所へ巡回又ハ出張セシトキニ支給ス
- 第三條 區内派車賃及人力車賃ノ實費拂ヲ認許スヘキ場合ハ左記各號ノ用務ニシテ非常急行ヲ要スルトキニ限ルモノトス
但在勤署(巡警駐在 所トモ)所在地ノ市町村内ニ於テ實費拂ヲ認許スルハ里程一里以上ニ涉ルモノニシテ一日

五拾錢以内ノ場合ニ限ル

- 一 行幸啓
- 二 皇族及大臣護衛
- 三 上司隨行
- 四 衆議院議員及縣會議員選舉
- 五 非常天災及地變
- 六 死傷者檢視檢証
- 七 人命犯及強盜其他重要犯罪人追跡
- 八 非常召集及警戒
- 九 視察人追尾
- 十 前項ノ外知事又ハ警部長ノ臨時命令事件
- 第四條 鐵道列車ニ無料乗車ノトキハ派車賃ヲ給セス此場合ニ於ケル宿泊料及日當ハ縣外ニ涉ルト雖モ縣内ノ定額ヲ支給ス
- 第五條 已未決囚護送ノ爲メ私設鐵道列車ニ乗車ノ場合ハ派車賃ニ限リ其半額ヲ支給ス
- 第六條 赴任ノ場合ハ警察署分署ノ各管轄内ト雖モ定額ノ旅費ヲ支給ス
- 第七條 甲署在勤員ヲ乙署へ勤務出張ノ場合ハ往返トモ普通旅費ヲ給シ乙署滞在及其管轄内ノ巡回出張ハ第一條ニ依リ區内旅費ヲ支給ス
- 第八條 職務上ニ關シ刑事ノ被告トナリ裁判所へ出頭スル往返ノ旅費ハ一切支給セス
- 第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨リ其甲年度所屬ノ里程端數ヲ生スルトキハ之ヲ乙年度所屬ノ里程ニ通算スルモノトス

縣ノ財務

第十條 旅費支給上ニ關スル里程ハ市町村(大)ノ中央標ヨリ起算シ鐵道及海路ハ其車船發着ノ場所間ヲ計算スルモノトス

第十一條 警察雇ノ旅費ハ總テ巡查ノ例ニ準ジ支給ス
(別表)

巡查旅費額

名	稱	流車賃	一里	船賃	一海里	車馬賃	一里	宿泊料	一夜	日當	一日
區內	旅費	實費	實費	實費	實費	實費	實費	實費	實費	實費	實費
區外	護送旅費	貳	錢	三	錢	八	錢	參拾五	錢	貳拾	錢

第七十五號 (訓令)

明治三十二年三月十七日

內務部
警察部
警察署
同分署

巡查手當支給規程左ノ通更正來四月一日ヨリ施行ス

但明治三十一年三月訓令第七號手當及辨當料支給規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢ス

巡查手當支給規程

第一條 手當ハ夜勤辨當料及武術用具費並宿所家賃同備品費同消耗品費等ニ充ル爲メ月額ヲ以テ別表

ノ額ヲ支給ス

一 但官舎又ハ自宅住居ノモノハ其半額ヲ給ス

第二條 外勤巡查月手當ノ内ヲ以テ名古屋市在勤ノ者ハ宿所点燈用具費及点燈用消耗品費那部在勤ノ者ハ宿所備品ノ保存費及消耗品費ヲ支辨スヘキモノトス

第三條 月手當額ハ土地ノ狀況ニ依リ警察署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ警部長ノ認可ヲ經テ支給額ヲ増減スルニ得

第四條 月手當ハ毎月末日ヲ以テ支給ノ定日トス第五條第二項以下ノ場合ハ定日ニ拘ハラズ其時々支給ス

但支給定日休暇ニ當ルトキハ繰上ケトス

第五條 左ニ掲クル場合ハ日割ヲ以テ支給ス

一 新任、及職務轉換ノ者ハ任命ノ翌日ヨリ支給ス

二 退職、休職、轉任、轉署(本署間ノ轉任)及他府縣(出向)ノ者ハ其辭令接受ノ日迄ヲ支給ス

三 死亡ノ者ハ其當日迄ヲ支給ス

第六條 日割計算法ハ月手當額ニ支給日數ヲ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ之ヲ除シ若シ厘位未滿ニ端數ヲ生スルトキハ毛位ニ於テ四捨五入スルモノトス

但職務轉換ノ際ハ前職ニ對スル分ト後職ニ屬スル分ノ各毛糸忽微迄ヲ併算シ仍ホ生スル毛位ハ四捨五入ス

(別表)

月手當	支給額
-----	-----

職別	警名	古察屋	市部	各	郡
巡查部長	貳	圓	壹圓八拾五錢		
外勤巡查	壹圓七拾五錢		壹圓六拾錢		
內勤、特務、刑事、別科、生、請願、配、置、巡查	壹圓五拾錢		壹圓三拾五錢		

訓令第十八號

明治三十二年三月二十七日

- 郡役所
- 警察署
- 同分署
- 縣立學校
- 縣立病院
- 驅微院
- 農事試驗場
- 水產試驗場
- 博物館

金庫藏置品出納規程左ノ通定

金庫藏置品出納規程

第一條、郡役所、警察署、同分署、縣立學校、同病院、驅微院、農事試驗場、水產試驗場、博物館ニ於テ取扱フ左ノ物品ハ所屬ノ異ナル毎ニ區別シ金庫ニ藏置シ嚴重ニ之ヲ管守スヘシ

- 一 公債證書及其他ノ證券類
- 二 預金及貯金通帳
- 三 現金及金券
- 四 交付未済ニ係ル仕拂命令及仕拂切符

第二條 金庫ノ設備ナキ場合ニ於テハ堅牢ナル函ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第一條ノ物品ハ總テ小函ニ藏メ尙之ヲ前項ノ函ニ藏置スルモノトス

第三條 前條ノ金函ハ便宜ニ重蓋ノ一函ヲ以テ代用スルモ妨ケナシ

第四條 金函ニハ函又ハ蓋毎ニ堅牢ニシテ各異ナル錠前ヲ付スルヲ要ス

前項ノ錠前ニシテ取リ外シ得ルモノハ閉鎖ノ月日ヲ記シタル紙片ニ其所管長及主務課長取扱主任管理ノ爲メ特ニ委員ヲ設置シ連印シ封緘ヲ爲スヘシ

第五條 金庫及金函ノ鍵ハ其一個ヲ必ス所管長ニ於テ自ラ之ヲ保管スヘシ所管長事故アルトキハ主務課長又ハ其他ノ者ニ保管セシムルコトヲ得

第六條 取扱主任ハ帳簿ヲ設ケ藏置品ノ出納ヲ登記シ常ニ其現在高ヲ明カナラシムヘシ

第七條 金庫又ハ金函ノ閉鎖ヲ爲ストキハ所管長主務課長及取扱主任ノ立會ヲ要ス

第八條 藏置品ノ出納ヲ爲ストキハ取扱主任ニ於テ決議書其他ノ證憑書ニ依リ第六條ノ帳簿ニ登記シ主務課長ヲ經テ所管長ニ提供シ帳簿ニ檢印ヲ受クヘシ

第九條 所管長ハ毎月一回以上藏置品ヲ帳簿其他證憑書類ニ對照シ詳密ノ点檢ヲ爲シ帳簿ニ点檢ノ年月日ヲ記シ認印スヘシ

第十條 課長ヲ置カサル所ニ於テハ課長ノ取扱フヘキ事項ハ首席吏員之ヲ行フモノトス

第十一條 所管長事故アルトキ其職務ヲ代理スルモノ主務課長若ハ首席吏員ナルトキハ本規程ニ於ケ

ル主務課長若ハ首席吏員ノ職務ハ他ノ課長若ハ吏員ニ於テ之ヲ取扱フ事モハ本課長ニシテ
 第十二條 一時ノ依托ニヨリ保管スル公債證書其他ノ證券預金及貯金通帳並ニ現金若クハ金券ノ出納
 ニ關シテモ本規程ニ依リ取扱フヘシ
 第八十七號 (訓令) 明治三十二年三月二十八日

監獄署
 同支署

押丁給與品及貸與品細則左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

押丁給與品及貸與品細則

第一條 給與品中夏服ノ供用期限ハ八ヶ月トシテ毎年度一組ツ、ヲ給ス
 第二條 給與品ノ給與期日左ノ如シ但下襟ハ六個分靴下ハ十二組ナ一時ニ靴ハ半ケ年度ニ分割一組ツ
 、ヲ給與スルコトヲ得

品目	給與期日
冬服	十月一日
夏報	六月一日
帽	同上
外套雨履共	四月一日
靴	同上

日 履 六月一日

冬襦袢及袴下 四月一日

夏 同 上 六月一日

下 襟 四六八月一日

靴 下 每月一日

第三條 給與品中靴下下襟襦袢袴下ニ限リ代料ヲ以テ給與ス其金額ハ毎年度別ニ之ヲ定ム
 第四條 供用期限ハ各其給與期日ヨリ起算シ夏服ハ十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄冬襦袢袴下ハ六
 月一日ヨリ九月三十日迄ノ期間ヲ中斷ス其供用滿期ノ給與品ハ現使用者ニ給與ス
 第五條 前條ノ外ハ看守給與品及貸與品細則第五條乃至第九條ヲ適用ス

第八十八號 (訓令) 明治三十二年三月二十八日

監獄署
 同支署

看守給與品及貸與品細則左ノ通改正本年四月一日ヨリ施行ス

看守給與品及貸與品細則

第一章 給與品

第一條 給與品中本則施行ノ際既ニ給與シタル夏服ノ保存期限ハ二ケ年トス
 第二條 給與品ノ給與期日左ノ如シ但下襟ハ六個分靴下ハ十二組分ヲ一時ニ短靴ハ半ケ年度ニ分割一
 組ツ、ヲ給與スルコトヲ得

品名	給與期日
冬服	十月一日
夏服	六月一日
甲種外套(雨覆)	十月一日
乙種外套(肩掛)	同上
帽子	六月一日
日履	同上
長靴	四月一日
短靴	同上
冬襦袢及袴下	同上
夏・同上	六月一日
下襟	四月六日 四月八日 四月十一日
手套	四月一日
靴	毎月一日

第三條 給與品中長靴短靴襦袢袴下下襟手套靴下ニ限リ代料ヲ以テ給與ス其金額ハ毎年度別ニ之ヲ定ム

第四條 供用期限ハ各其給與期日ヨリ起算シ冬襦袢袴下ニ限リ六月一日ヨリ九月三十日迄ノ期間ヲ中斷ス其供用満期ノ給與品ハ現使用者ニ給與ス

第五條 給與期日後ノ新任復職轉職ノ者ニハ前職者ノ還納品ヲ給與シ其供用期限ヲ繼續セシム

第六條 新任復職轉職死亡等ニ係ルモノハ代料金ハ總テ月割ヲ以テ支給又ハ返納セシム其異動當月ニ對スルモノハ十五日前後ヲ以テ區分シ十五日以前ニ發令又ハ死亡ノ者ハ支給ハ全月分返納ハ半月分トシ十六日以後ニ係ルモノハ支給ハ半月分トシ返納ハ之ヲ要セス

第七條 代料下付金月割計算法左ノ如シ

一 月割ハ支給月數ヲ全期ニ對スル支給金額ニ乘シ其供用期限ハ月數ヲ以テ之ヲ除ス

二 半月割ハ全期ニ對スル支給額ヲ其供用月數ヲ以テ除シタル算出額ヲ折半ス

三 月割ト半月割ト併算支給ヲ要スルルハ各座位未滿ノ端數ヲ合算シタル上毛位ニ於テ四捨五入ス

第二章 貸與品

第八條 貸與品ハ登人ニ一個又ハ一具ツ、テ貸與シ常ニ保管セシム

第九條 貸與品ハ其用ニ耐ヘ難キナ期限トシ交換貸與ス

第九十一號 (訓令) 明治三十二年三月二十八日

内務部

地方衛生會員農商工諮問會員ニシテ會場所在地ニ住居スルカ爲メ旅費ノ支給ヲ受ケサル者實務ニ服シタルトキハ其日數ニ應シ左ノ通支給ス
本會ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
地方衛生會員 手當 一日ニ付金壹圓五拾錢

縣令第二十六號

明治三十二年三月三十一日

明治三十二年勅令第二十八號中學校令第十四條同年勅令第二十九號實業學校令第十一條及同年勅令第三十一號高等女學校令第十五條ニ基キ公立中學校公立實業學校及公立高等女學校職員俸給旅費並諸給與規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

公立中學校公立實業學校及公立高等女學校職員俸給旅費並諸給與規則

第一章 俸給

第一條 公立中學校公立實業學校及公立高等女學校ノ學校長又ハ教諭ニシテ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ年俸六百圓以上判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校長及教諭ハ月俸參拾圓以上助教諭及舎監ハ月俸拾五圓以上書記ハ月俸拾圓以上トス但高等女學校及市町村立實業學校ノ教諭ハ月俸貳拾五圓以上トナスコトヲ得(三二縣五八追加)

第二條 俸給ハ每月下旬ニ於テ支給スルモノトス但年俸ハ十二分シテ其當月分ヲ支給スヘシ(三二縣五八改正)

第三條 新任復職増俸又ハ減俸ハ發令ノ翌日ヨリ轉任ハ發令ノ日迄ヲ甲校翌日以後ハ乙校ニ於テ日割ヲ以テ支給スヘシ

第四條 休職ヲ命シタルトキハ其翌日ヨリ俸給ヲ支給セス但職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ由リ休職ヲ命シタル者ハ俸給三分ノ一ヲ支給スヘシ

第五條 退職又ハ死亡ノトキハ當月分ノ俸給全額ヲ其際支給スヘシ但懲戒處分若ハ刑事裁判ニ由リ退職シタル者ハ其當日ヲ限リ日割ヲ以テ支給スヘシ

第六條 休職退職ノ者事務引繼發務調理等ノ爲メ特ニ命ヲ承ケテ公務ニ從事スルハ其間仍ホ從前ノ

俸給ヲ支給スヘシ

第七條 病氣ノ爲メ執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減ス但職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此限ニアラス

第八條 學校ノ休業及前條但書ノ事故ハ病氣若ハ私事ノ故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ間勤日數ニ算入セス又病氣ト私事ノ故障ト連續スルモ之ヲ通算セス

第九條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ニシテ召集ニ應ジ陸軍給與令ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル間ハ學校ノ俸給ヲ支給セス但其額學校ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ヲ補給スヘシ(三二縣五八追加)

第十條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス

第二章 旅費

第十一條 公立中學校公立實業學校及公立高等女學校ノ職員公務ニ依リ旅行スルトキハ左表定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リ旅費ヲ支給スヘシ

種	別		汽車賃 二付	船賃 一海里 二付	車馬賃 一里 二付	宿泊料 一夜 二付	日當 一日 二付
	縣内	縣外					
委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者	四錢	四錢	五錢	拾八錢	壹圓貳拾錢	八拾錢	
判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者	四錢	四錢	五錢	貳拾錢	壹圓五拾錢	壹圓	
待遇ヲ受クル者	參錢	參錢	四錢	拾貳錢	六拾錢	四拾錢	
待遇ヲ受クル者	參錢	參錢	四錢	拾五錢	壹圓	五拾錢	

第十二條 汽車旅行ニハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其他ノ旅行ハ陸路旅行

トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス

宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス

第十三條 旅行ノ性質ニ依リ又ハ暴風雨積雪若ハ道路險惡等ノ爲メ定額ノ車馬賃又ハ汽車賃ニテ支辨

シ難キ場合ハ實費ヲ以テ支給スルコトヲ得

第十四條 汽車賃船賃及車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ支給スヘシ但一位未滿端數

ノ路程ハ切捨トス

第十五條 年度若ハ日ニ依リ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ汽車旅行若ハ水路旅行ニ

シテ其區分判明ナラザルトキハ最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ其路程ヲ區別シテ計算スヘシ

第十六條 陸路六里未滿汽車十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス但公務ノ都合ニ依リ

宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給スヘシ

第十七條 轉任ノトキハ舊任地ヨリ新任地マテ汽車賃船賃及車馬賃ニ限り定額ノ二倍ヲ支給シ新タニ

任用スル場合ニハ現任地ヨリ任地ニ到ル旅費ノ定額ヲ支給スヘシ

第十八條 旅行中退職休職若ハ死亡ノ者ニハ前職若ハ本職相當ヲ以テ舊任地マテ旅費ヲ支給スヘシ

但懲戒處分若ハ刑事裁判ニ由リ退職ノ者ハ此限ニアラス

第十九條 第十五條第十六條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ汽車旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百

海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行

程トシ一日旅行ヲ十二時トス但通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ計算スルモノトス

第二十條 事務引繼殘務取調等ノ爲メ退職者ニ旅行ヲ命スルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二十一條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルモ旅費ハ順路ニ應シテ支給スルモノトス

第二十二條 學術講究ノ爲メ派遣スル場合又ハ生徒ノ修學指導ノ爲メ旅行スル場合ニハ時宜ニ依リ定額ノ旅費ヲ減少シ又ハ定額ノ旅費ヲ給セス其宿泊ヲ要スル場合ニ限り相當ノ日當及宿泊料ヲ定メテ之ヲ給シ又ハ旅行中ノ總額ヲ定メテ之ヲ給スルコトヲ得

第三章 諸給與

第二十三條 公立中學校公立實業學校及公立高等女學校ノ職員在職中死亡シタルトキハ委任文官ト同

一ノ待遇ヲ受クル者ニハ年俸三分ノ一判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス休職者ニ於テモ亦同シ但遺族トハ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料

法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ(三二縣五八追加)

第二十四條 職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケタルトキハ實費職務ノ爲メ傳染病ニ感染シタルトキハ一日金壹圓

ノ割ヲ以テ療治料ヲ給與スヘシ(三二縣五八改正)

第二十五條 宿直又ハ徹夜勤務ヲ爲シタルトキハ相當ノ食料又ハ現品ヲ給與スヘシ

附 則

第二十六條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但第二十一條ノ規定ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

訓令第二十一號

明治三十二年三月三十一日

內務部 警務部 監獄署 郡役所 警察署

監獄支署
縣立學校
縣立病院
農事試驗場
廳 徽 院
縣金庫出納役

明治二十八年四月訓令第三十五號本縣會計規則第二十二條ノ仕拂命令ハ内務部第四課長及主務係員二名同第三十七條ノ仕拂切符ハ會計主務者ノ外廳長及主務課長課長ヲ指カサル所ニ於テハ首席吏員又主務課長若ハ首席吏員會計主務者ナルトキハ他ノ課長若ハ吏員該命令若ハ切符金額ノ右傍ニ各認印シテ之ヲ發付スヘシ同年同月訓令第四十號雜部金取扱規程第四條ノ仕拂切符亦同シ

廳長事故アルトキ其職務ヲ代理スル者主務課長若ハ首席吏員ナルトキハ他ノ吏員ヲシテ前項ノ主務課長若クハ首席吏員ニ代テ認印セシムルモノトス内務部第四課長事故アルトキ課員ニ於テ其職務ヲ代理スル場合亦之ニ準ス
仕拂命令仕拂切符ニ認印スヘキ者ノ印鑑ハ照較ニ供スル爲メ豫メ關係ノ縣金庫ニ送付スヘシ
縣金庫ハ前項ニ依リ印鑑ノ送付ヲ受ケタル者三名ノ認印ナキトキ若ハ印鑑ニ違ヒタル認印アル仕拂命令仕拂切符ニ對シテ現金ノ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第百六號 (訓令)

明治三十二年三月三十一日

監獄署
同 支 署

備入給與品及貸與品規程別紙ノ通改正本年四月一日ヨリ施行ス

備入(女監取繕者)給與品及貸與品規程

第一條 給與品ハ現品ヲ以テ給ス但靴下半年長靴襦袢袴下ニ限リ代料ヲ給與ス其金額ハ毎年度別ニ之ヲ定ム

第二條 取者ニ給與スル品目等左ノ如シ

但冬服ハ初度一組ヲ給シ滿一年ヲ經テ尙一組ヲ給シ夏服ハ毎年度一組ヲ給ス又靴下半年長靴下ハ十二組分テ一時ニ給與スルコトヲ得

品目	員數	供用期限	給與期日
冬服	貳組	三年	十月一日
夏服	貳組	八年	六月一日
帽子	壹個	壹年	同上
外套(雨掛)	壹組	二年	十月一日
牛長靴	壹足	六年	四月一日
冬襦袢及袴下	貳組	八年	四月一日
夏同上	貳組	四年	六月一日
靴下	貳組	一年	每月一日

第三條 前條ノ外ハ押丁給與品及貸與品規則第五六七條並ニ細則第四五條ヲ適用ス

訓令第二十二號

明治三十二年四月十三日

郡役所
縣金庫出納役

明治二十三年七月勅令第百二十五號官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序左ノ通定

第一條 明治二十三年七月勅令第百二十五號官吏遺族扶助法納金收入規則第一條第二項ニ依リ郡役所ノ

出納吏ニ於テ國庫納金ヲ差引トキ俸給仕拂ニ係ル仕拂切符仕拂通知書及集台仕拂切符ニ添付スル金

額氏名表ハ第一號乃至第五號様式ニ依ルヘシ

第二條 縣金庫ニ於テ前條ノ仕拂切符ヲ受ケ現金ノ仕拂ヲ執行スルトキハ該仕拂切符金額ノ内譯ニ列

記シタル集台仕拂切符ニ付屬スル金額氏名表中ノ者ハ國庫納金引去高ヲ控除シ現金支給高ヲ受取人ニ交付ス

前項控除ノ國庫納金引去高ハ普通仕拂ノ順序ニ依リ一旦之ヲ拂出シ直ニ其仕拂切符ヲ發シタル出納

吏所管ノ雜部金ニ振替ヲ爲シ第六號様式ノ報告書ヲ製シ當該出納吏ニ送付スヘシ

縣金庫事務規程第十二條ノ送金ヲ爲ス場合ト雖トモ國庫納付金引去高ハ前項ノ順序ニ依ルモノト

ス

第三條 出納吏ニ於テ第二條ノ雜部金振替報告書ヲ受ケタルトキハ雜部金受拂簿ニ其金額ヲ登記シ仕

拂切符ヲ以テ之ヲ拂出シ明治二十三年七月勅令第百二十五號官吏遺族扶助法納金收入規則第二條第二

項ノ手續ヲ爲スヘシ

第一號

仕

拂

切

符

案

乙第

甲第	何	號	何	某	渡	總代ノトキ何某外何人總代
明治	何	年度	歲	出		
一金	何	程	俸	給	高	
內	金	何	程	現	金	支給
	金	何	程	國	庫	納金
				引	去	高
本行ノ金額此仕拂切符持參人ニ仕拂可有之候也						
明治 年 月 日						
出納吏						
官 氏 各 印						
縣 金 庫 宛						
乙第	何	號	何	某	渡	
明治	何	年度	歲	出		

縣ノ財務

第二號 符切拂仕内 拂仕(合集)

一金何程	俸給高
内 金何程	現金支給高
金何程	國庫納金引去高

此仕拂切符本日發行ス

明治年月日

出納吏

官氏名印

縣金庫宛

第 何 號 何 某 渡

明治何年度 歲

何某外何人渡

一金何程 俸給高

内 金何程 現金支給高

金何程 國庫納金引去高

符切 面裏符切拂仕(合集)

右金額仕拂通知書持參人ニ仕拂可有之候也

明治年月日

出納吏

官氏名印

縣金庫宛

(一) 表書ノ金額ハ某金庫ニテ仕拂フヘシ

(二) 表書ノ金額ハ何府縣何郡市何町村何某ニ送金スヘシ

(三) 表書ノ金額ハ氏名表債主區域ノ金庫ニ於テ仕拂フヘシ

第三號

明治何年度集合支拂切符第何號金額氏名表

何郡書記何某外何人俸給高

一金何程

內

金何程

金何程

內 譯

金何程

第一號(通知書ト同一ノ番號ヲ付ス)

何 某 渡

內

金何程

金何程

金何程

第二號(同上)

何 某 渡

內

金何程

金何程

現 金 支 給 高
國庫納金引去高

出納吏

官 氏 名 印

明治年 月 日

第四號

備考 縣内ノ債主ニ對シテ發スル仕拂通知書ハ此書式ニ依ルモノトス

第 何 號 明治何年度仕拂切符第何號 歲 出

一金何程 俸 給 高

內 金何程 現金支給高
國庫納金引去高

右金額愛知縣何支金庫ニ於テ仕拂フヘクニヨリ明治何年何月何日迄ニ此通知書引換ニ現金ヲ受取ラルヘン

明治何年何月何日 出納吏 官 氏 名 印

何 某 殿

前書之金額正ニ領收候也

受取人

明治何年何月何日 何 某 印

書 收 領 出納吏官氏名宛

第五號

備考 縣外ノ債主ニ對シテ發スル仕拂通知書ハ此書式ニ依ルモノトス

書 收 額	仕 拂 通 知 書							
	第 何 號	明治何年度仕拂切符第何號						
前書之金額正ニ領收候也 明治何年何月何日 出納吏 官氏名宛	<table border="1"> <tr> <td>一金何程</td> <td>俸 給 高</td> </tr> <tr> <td>内 金何程</td> <td>現金支給高</td> </tr> <tr> <td></td> <td>國庫納金引去高</td> </tr> </table>		一金何程	俸 給 高	内 金何程	現金支給高		國庫納金引去高
	一金何程	俸 給 高						
内 金何程	現金支給高							
	國庫納金引去高							
右金額愛知縣何支金庫ヨリ送付候條現金領收ノトキハ左ニ年月日及氏名ヲ記載シ調印之上直ニ金庫ニ交付可有之候也 明治何年何月何日 住所 某 殿 出納吏 官氏名印	<table border="1"> <tr> <td>前書之金額正ニ領收候也</td> <td>受取人 何 某印</td> </tr> </table>		前書之金額正ニ領收候也	受取人 何 某印				
前書之金額正ニ領收候也	受取人 何 某印							

第六號

國庫納金引去高振替報告

一金何程

國庫納金引去高

内

金何程

何 某 分

但明治何年何月何日仕拂切符第何號ノ分

金何程

何 某 分

但明治何年何月何日仕拂切符第何號ニ對スル仕拂通知書第何號ノ分

金何程

何 某 分
何某外何人總代

但明治何年何月何日仕拂切符第何號ノ分

右現金控除ノ上雜部金ノ受入ニ振替保管致候條及報告候也

明治何年何月何日

何々縣金庫

金庫出納役代理人

何 某 印

出納吏官氏名宛

縣令第四十三號

明治三十二年四月二十九日

師範學校生徒學費支給方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

師範學校生徒學費支給方法

- 第一條 師範學校生徒ニ支給スヘキ學費ヲ分テテ食物、被服及雜費ノ三種トス
- 第二條 食物ハ當該年度ノ豫算ニ基キ學校ニ於テ現品ヲ支給ス但停學中並病氣療養其ノ他自己ノ便宜ニヨリ歸郷又ハ下宿中ノ者ニハ之ヲ支給セス
- 第三條 被服ハ左表ニ依リ之ヲ支給ス

品目	生徒種別	保存期限	支給額			
			第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
絨冬衣袴	本科	二年	一			
	簡易科	二年四ヶ月				
小倉冬衣袴	同	一年	一			
	同	一年二ヶ月				
夏衣袴	同	一年	二			
	同	一年二ヶ月				
冬襦衣袴	同	一年	二			
	同	一年二ヶ月				
夏襦衣袴	同	一年	二			
	同	一年二ヶ月				

靴	脚絆	靴	帽子日履共	外套頭巾共	
				同	同
靴下	同	同	同	四年	一
				二年四ヶ月	一
同	同	同	二年	二年	一
				二年四ヶ月	一
同	同	一年	一年	二年	二
				二年四ヶ月	一
同	同	一年	一年	二年	二
				二年四ヶ月	一
同	同	一年	一年	二年	二
				二年四ヶ月	一
同	同	一年	一年	二年	二
				二年四ヶ月	一
同	同	一年	一年	二年	二
				二年四ヶ月	一
同	同	一年	一年	二年	二
				二年四ヶ月	一

夏衣袴及夏襦衣袴ハ入學ノ時期ニヨリ之ヲ要セサルトキハ第二學年ニ於テ各二組ヲ給ス又卒業ノ時期ニヨリ冬衣袴冬襦衣袴又ハ夏衣袴夏襦衣袴ヲ要セサルトキハ之ヲ支給セス

避クヘカラサル事由ニアラスシテ保存期限内ニ被服ヲ損傷シ更ニ交付ヲ要スルトキハ本人ヨリ其ノ費用ヲ辨償セシム

第四條 雜費ハ日用品費湯浴費及療養費ノ三種トス

日用品費ハ學用品及被服ノ修理洗濯ノ費用ニ充ツ但其ノ一部ハ現金ヲ以テ支給ス

湯浴費ハ生徒浴場ノ費用ニ充ツ

療養費ハ學校ニ於テ療養ヲ命シタルモノニ限り實費ヲ給ス

第五條 半途退學ヲ命シタル者ニハ時服一組靴一足ヲ給シ保存期限内ノ被服ハ之ヲ返納セシム

附 則

第六條 被服中本科第三學年ニ於テ支給スル絨冬衣袴ニ就テハ明治三十三年度ヨリ施行ス
第七十七號 (訓令) 明治三十二年五月三十一日 内務部

和蘭國ウエルコンテナント會社ニ於テ製造スル熟田灣築港用浚渫機製造監督中ニ要スル郵便電信料ハ該
監督者ニ概算渡ヲナスコトヲ得

第九十六號 (訓令) 明治三十二年七月十七日

内務部
警察部
監獄署
警察分署
警察分署
監獄支署

改正條約實施ニ際シ監獄ニ拘禁スル外國人ノ食糧ハ刑事被告人ニ係ルモノハ可成自辨購求ヲ許可シ其
自辨スル能ハサル被告人及囚人ニシテ日本食ニ馴レサルモノニハ別紙食糧表ノ種類賦立ヲ參酌シ一食
金拾錢ノ範圍内ニ於テ支給スヘシ警察留置人ノ食糧モ亦同シ
食糧表

種 類	男 分 量	女 分 量
朝 食		

麥湯又ハ茶	(一) 豆類	(二) 脂肪	薯類	引割麥	脂肪	(三) 脂肪	粥(米麥及馬鈴薯ヲ混交ス)	米又ハ麥	馬鈴薯	脂肪
二合	五十四匁	二百八十三匁	二十四匁	二十四匁	二十四匁	二十四匁	二十四匁	二百三匁	二百三匁	十四匁
二合	四十三匁	百八十八匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	百七十八匁	百七十八匁	十一匁
二合	二十七匁	百七十八匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	百七十八匁	百七十八匁	十一匁
二合	二十七匁	百七十八匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	百七十八匁	百七十八匁	十一匁
二合	二十七匁	百七十八匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	百七十八匁	百七十八匁	十一匁
二合	二十七匁	百七十八匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	百七十八匁	百七十八匁	十一匁
二合	二十七匁	百七十八匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	百七十八匁	百七十八匁	十一匁
二合	二十七匁	百七十八匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	百七十八匁	百七十八匁	十一匁
二合	二十七匁	百七十八匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	百七十八匁	百七十八匁	十一匁
二合	二十七匁	百七十八匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	十一匁	百七十八匁	百七十八匁	十一匁

縣ノ財務

五二七

汁	(三)	脂肪	引割麥又ハ米	(二)	脂肪類	小麥又ハ大麥粉	汁	(一)	夕食	脂肪	馬鈴薯	豆類	大根類	(七)	脂肪	麥粉	馬鈴薯	大根蕪類	(六)	脂肪	麥粉	馬鈴薯	(五)	脂肪	麥粉	馬鈴薯	豆類	蕪菜類	(四)
		十	二	十	二					十	二	三	二		十	五	二	十		十	五	二	十	五	二	二	五		
		四	十	四	十					四	百	十	十		四	百	百	四		四	四	百	四	百	百	十	十		
		匁	匁	匁	匁					匁	匁	匁	匁		匁	匁	匁	匁		匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	
		十	十	十	十					十	百	三	十		十	三	百	十		十	三	百	十	三	百	二	五		
		匁	匁	匁	匁					匁	匁	匁	匁		匁	匁	匁	匁		匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	
		一	八	一	八					一	七	十	八		一	十八	十八	一		一	十八	十八	一	十八	十八	七	十七		
		匁	匁	匁	匁					匁	匁	匁	匁		匁	匁	匁	匁		匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	

麥粉	五	匁	三	匁
脂肪	十	四	十	一
汁	(四)			
麥類	五	匁	三	匁
脂肪	三	匁	三	匁
馬鈴薯	百	四	十	匁
	百	四	十	匁

麵包ハ一日三回一回四十匁ヲ給ス
 肉ハ一週二回若クハ三回百二十匁トス
 麵包ニ代ユルニ脂肪米麥馬鈴薯豆類混合ノ雜炊ライスカレ―等日本食類似ノモノヲ與ヘ可成的速カ
 ニ日本食ニ堪ユルノ慣習ヲ生セシムルノ注意アルヲ要ス
 肉ト脂肪トハ適度ニ交換シテ給スルヲ要ス
 肉ヲ給シタルトキハ脂肪ヲ給セス
 病者ノ食糧糧類ハ典獄醫師ノ意見ヲ諮ヒ之ヲ定ム
 本表ノ分量ハ一人一食調理ノ分量ナリ

告示第百十八號 明治三十二年七月二十九日

府縣制第百四十三條及同第九十四條ニヨリ内務大臣ノ許可ヲ得テ縣會議員投票立會人選舉立會人費用
 辨償額及支給規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

縣會議員投票立會人選舉立會人費用辨償額及支給規程

第一條 投票立會人及選舉立會人ニ支給スル費用ノ辨償額ハ別表ニ依ル
 第二條 瀛車旅行ニハ哩數ニ應シ瀛車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ陸路旅行ニハ里數ニ應シ
 車馬賃ヲ支給ス但往復一位未滿ノ端數ノ路程ハ切捨トス
 宿泊料ハ居住町村外ニ於テ現ニ宿泊ヲ爲シタル者ニ限り其夜數ニ應シ日當ハ職務ニ從事シタル日數
 ニ應シ之ヲ支給ス
 第三條 府縣制第二十一條ニ該當セサル投票立會人ニハ瀛車賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス
 (別表)

瀛車賃ニ	哩	船	賃ニ	海里	車馬賃ニ	里	宿泊料ニ	夜	日	當ニ	日
四	錢	四	錢	拾	五	錢	壹	圓	五	拾	錢











